

# 資料翻刻 2

## 海野十三

## 横溝正史あて書簡

〈昭和21年4月14日～23年10月31日〉



作家デビューのころ

海野十三(うんの・じゅうざ 明治30・1897～昭和24・1949)

徳島県生まれ。小説家。本名佐野昌一。早稲田大学理工学部卒業後、逓信省電気試験所技師として勤務。科学雑誌に科学解説や科学童話等を執筆、1928年「電気風呂の怪死事件」を雑誌「新青年」に発表。以後「振動魔」(31年)「俘囚」(34年)など科学知識を活かした探偵小説や科学小説を執筆。「火星兵团」(39年)「地球要塞」(40年)など少年向け科学小説にも尽力し、のちの日本SF第一世代に多大な影響を与えた。1930年より没年まで若林在住。

【資料概要】

海野十三から横溝正史にあてた書簡。昭和21年4月14日～26日（4通）、昭和23年7月30日～10月31日（73通）、計77通

当館所蔵の海野十三 横溝正史あて書簡はいずれも横溝孝子氏（横溝正史夫人）寄贈である。戦後まもなく岡山県に疎開していた横溝の居所を人づてに聞いた海野が横溝にあてて手紙を送ったことから両者の間に文通が始まり、それは昭和23年夏に横溝一家が帰京したのちも続いた。特に成城転居後は連日のように書簡の往復があったことがうかがわれる。



昭和23年8月13日の書簡に同封されていた「THE NEW YORK TIMES OVERSEAS WEEKLY」(1948年8月1日号)の切り抜き

当館では海野から横溝にあてた書簡は今回収録のほかに昭和23年11月から翌24年5月17日（海野が逝去した当日）までの148通を所蔵しており、今後も順次翻刻を進めていく予定である。

横溝は、海野が「新青年」でデビューした当時の編集長であり、横溝あての海野の署名入り献呈本も複数残されていることから、二人の間には戦前から書簡のやりとりがあったと推測されるが、当館での所蔵は右記のみである。また、横溝からの海野あての書簡は所蔵していない。共に結核療養中の身であり気軽に外出が出来なかったため、書簡には毎日の詳細な病状のほか、執筆に関する話題や読んだ本、日常生活、家族・共通の友人のことなどが詳らかに記されている。

【凡例】

- 資料番号は各書簡の年月日の下に（ ）で記した
- 発信地の住所はすべて世田谷区若林の海野十三宅のため省略した。受信地の住所は世田谷区成城の横溝正史宅以外の場合のみ記載した
- はがきや封書の差出人欄に書かれた日付を資料名に入れた。但し本文と差出人欄の日付が異なる場合には本文の方を採用した
- 漢字の旧字体は新字にあらためた。ただし、人名・固有名詞などは一部表記（旧字）通りとした
- 仮名 表記通り（ほぼ旧仮名、但しカタカナ表記の撥音便は表記通り）
- 数字・記号 表記通り
- 改行、文字間の空き、句読点の配置はほぼ表記通り
- 判読不明の文字は、その字数分、□□□とした
- 書簡内の海野による絵は極力図版として入れたが、入れられなかったものは「○○の図」と表記した
- 翻刻者註（\*）は適宜各日末尾に記載。なお「横溝正史日記」翻刻に入れた事項、人物は一部省略した

資料翻刻2

# 海野十三 横溝正史あて書簡

（昭和21年4月14日～23年10月31日）

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和21年4月14日（12068）

封書 便箋3枚表裏に記入 筆書

〔宛先〕岡山県吉備郡岡田村字桜 横溝正史様  
拝呈、近日来寒気も漸くに退散いたし寒さざらひの小生大満悦にをります。先日「宝石」の会合ありてマ司令部\*の出版調査官タトル大尉の臨席を仰ぎ在京探偵作家勢揃ひにて近頃にないうれしい会合でした、江戸川、大下、水谷、木々、城、角田、小生の在京者の外に、渋川在の渡辺啓助も加はりました。いづれ同（うら）誌上で発表される事でせう。但し大尉の話は大した事ではなく、探偵小説についてのみのこつちの質問はむしろ同大尉にお気の毒でした。しかしいい方で、全く敬意を生じました。

「ロック」一号はひどいものでした。二号から漸く体裁を整へたものとするべく貴兄よりの御申告をたいへんよろこんでみます。又「ぶろふいる」誌が六月より再出発しますので探小誌は三つになるわけ、ともかくも賑かな事です、この方は、九鬼澹君（三上紫郎）の編輯です。

新聞は広告される雑誌単行本は数多けれども数を実際に出すものは極めて寒々。印刷面の渋滞は依然として著しきものあり、但し選挙もすみ官郵書印刷も一息ついたのあとではスピードを回復するかと思ひます。

稿料は封鎖支払\*が多くてやり切れません。何十円もらっても封鎖では紙屑同様、一向有難からず、書き始めても、これも封鎖かと思へば気乗りがしなくなり、ます／＼筆がにぶり、作品が低調となります。切手も新円で、原稿用紙も新円で、インキもペンも新円で、そして封鎖を貰ふのでは、新円を減らすために苦労して原稿を書いてあるやうでバカ／＼しい事です—といったやうな考へを起こすのもこれ又人情であります。原稿料は新円にてお支払いたしますといふ社もあり、こつちから頼んで半分を新円でもらふやうにして、やれ／＼と思ふ事もあり、単行本のときは一層この支払が微妙であります。封鎖なら印税一割、新円払ならば八分にといて叩いてくる出版もあります。

とにかくだん／＼と新円化する事でせうが、大きい社など封鎖でよこします。しかし又このうち平価切下やら新円の尽はりも起るべく、新円をつかんだとて安心ならず、新円があればどん／＼食物に替へてしまふといふのが今日の東京の状態のやうに思ひます。そちらは如何ですか。又元の話に戻り、「宝石」一号は中旬出る様子、「ロック」二号は月末迄かかるといふ話で、「むしろ拙速を」と山崎氏へすゝめてみます。近況ちょっとこれ迄。

四月十四日

正史大兄

\*マ司令部 マッカーサー連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）  
 \*封鎖支払 封鎖預貯金は昭和21年に金融緊急措置令により施行された預貯金払戻しの制限。封鎖支払いは封鎖預貯金から封鎖のまま支払いをすること  
 \*新円 昭和21年に施行された新円切り替え。社会的混乱を招いた

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和21年4月18日（12062）

封書 海野用箋2枚 ペン書  
 「宛先」岡山県吉備郡岡田村字桜 横溝正史様  
 四月十八日 十三

正史兄

拝呈、けふ「ロック」の編輯方針討ぎ会のやうなものがあって、江戸川、木々、小生と大慈宗一郎君\*と中島親君\*とが出席、先方は山崎君とマネージャーの成田氏とが見えました。貴案と木々案とが提出され、検討いたしました。大體貴案でこの三ヶ月は進むことになったやうです。（木々案は、八〇枚二本建とし、随筆三〇枚、以て他誌と比べて特色あるものにすべしとの案でした。しかし江戸川さんが、それは駄作を得たとき危険状態を招来するといつてかぶりをふりました）

貴連載\*はすこぶるの期待をもつてみます。山崎君にすすめて、その掲載号はそれをトップに、一号大きい九ポで組み（木々氏は小説は絶対九ポ案。現誌は八ポです）大々的に宣伝することになりました。大慈中島両君は、実際上の編輯スタッフとして二人協力して同誌を推進することにより、毎土曜日は出社し、かたはら新人吉野君の訪問も受けるなど、大いに活躍してくれませう。

かからのジャガイモ一人に付二キロ（値三十三匁／キロ）を配給されそれを食べてみます。旧の敵国から、漸くも恩恵を受けるとは思ひもかけず、全く涙を催してみます。さるにてもわが政府の無力さよ。イヤナツチャウです。

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和21年4月26日（12075）

官製はがき（石川達三衆院選立候補を知らせるはがきを再利用） 筆書  
 「宛先」岡山県吉備郡岡田字桜 横溝正史様

貴翰「クエーン、マガジン」\*に関する記事あるお手紙只今拝受いたしました。早速山崎君及江戸川さんへ伝達いたします。小生は至極結構と思ひます。只難点は目下の紙の問題により紙面のせまいことです。過日の「ロック」の会の際にも拡大案を出しましたが、目下これは見込薄のやうです。「ぶろふいる」の稿料の件は甚だよろしからず、今資本主熊谷氏にも忠言し、三上紫郎君にもはっきりいってあります、聴かざれば、同誌も三号以後大いに困るでせうが、兎に角常識外れのことはやめて貰はねばなりません。小説30円、随筆20円は主張いたしたく、又他誌「寶石」もやすいので、これも訂正申入れたいと思ひますが如何ですか。ちよつと一筆申候。「新青年」の貴作\*たいへんたのしくうれしく拝見。

\*「クエーン、マガジン」 アメリカのミステリー小説誌「エラーリー・クイーンズ・ミステリ・マガジン」。のちに日本版が早川書房より刊行された。  
 \*「新青年」の貴作 「蟹」（「新青年」昭和21年4月号掲載）

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年7月30日（19738）

封書 佐野用箋3枚 ペン書  
 「宛先」岡山県吉備郡岡田村字クラ宛から回送 東京都世田ヶ谷宅 横溝正史殿

これに対し貴兄やわれ／＼古い連中でバックアップして、何とか一人前の探小誌\*に仕立あげたきもので、とくに貴兄の一層の御指導を私からもお願いする次第。（全く、見ちゃいられませんので、あぶなかくして……）「ぶろふいる」も六月からクオーターリーで出すといふ話は前にしましたが、稿料10円です。これは以ての外だと、資本主の熊谷氏へ伝えておきました。

山崎君がそのうち貴兄のところへお訪ねするかもしれないとのこと。彼は純真で熱情家で、愛すべき人です。十分にきたへてやって下さい。本も雑誌も大洪水のごとく印刷所へ流れこみ、そこで大停頓してみます。流れ出すのは七月頃からで、それまでは広告は出て、現物はなかく出ますまい。

古本が大分下がりました（新円以来）。ところがちかごろ少しあがり気味です。生活難からやむを得ず売りに出す人がふえて来たためと思はれます。（近況以上）

\*大慈宗一郎君 探偵作家  
 \*中島親君 探偵作家  
 \*貴連載 横溝「蝶々殺人事件」（「ロック」昭和21年5月号、22年4月号に連載）  
 \*探小誌 探偵小説雑誌

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和21年4月23日（12071）

官製はがき（石川達三衆院選立候補を知らせるはがきを再利用） 筆書  
 「宛先」岡山県吉備郡岡田字桜 横溝正史様

新円生活下の御近説拝読 田舎は餓死の心配なしと思つてみました。普通の疎開先は此所えらい脅威を受けてゐるわけですね。併し東京は何しろ食物がない故たいへん。もう配給は八日とまり、昨日やつとアメリカ

七月三十日

お手紙二十三日と二十四日との二通、ありがたく頂きました。いよくのいよく御用意完了に近き由。恙なく御移動のほど祈上げます。奥様も、もうおかへりになつたことせう。

私は今日は朝から税金申告の計算で頭をおもしろくなくこき使つてみます。そこへ税ム署から七万九千何がし円の税金納付督促が来ました。これは海野十三宛で、過日異議申立てをいたし（重複課税につき）、署長より「免除する」との通知が来てゐたものですが、同じ署長で、又納付しろと命令書が来るのは、あまりといへば連絡のないだらしなさに、呆れ果てました。

そこでこつちも只今お冠をまけて、税金計算をおつぽり出して一息入れてゐるところ。

昨日も一昨日も夕方七度に体温があがりました。まだ気管支カタルが十分に癒つてゐないらしく、今日も計算がすんだら寝るつもりです。蜘蛛は全くおそるべき猖獗を極めて居りまして、わが家においてもシヤクにさはる事甚大でありまして、その種類は大より小まで、約十種はあるらしく、目下目のかたきにして退治に腐心して居ますが、戦況はわれに不利であります。

その後泥坊来らず、警報機も従つて鳴らず、今日は垣根をつくるひ、隣家との間に板塀をこしらへることになってゐます。

今日延原氏より来信。八月十五日頃迄に移転の予定とあります。東京は畳表のいいものなし。特約しておかれたら、将来きつとおとくになりませう。

では皆さんによろしく。  
 猫の仔は、下から椅子の上へとびあがるやうになりました。

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年7月31日(19883)

官製はがき 筆書、ペン書、落款

〔裏面中心に(寿)の文字〕

只今、廿七日附の御手紙を頂き、大いに楽しみまして、さて御返事をと、用意にかかりまして気がつきました。今日は七月廿一日だ。あなたは家康江戸入城の記念日である八月一日に入京される、すると明日のことである。すると、岡山県宇野クラ宛へ出してももう間に合はぬ。これはえらいことになったぞと微笑を禁じ得ず、今日の分は、成城宛の第一信となるかと、今更のやうにうれしくなり、何かお祝の方法もがたと考へましたが、わくわくうれしくて句を作つてゐるのもまどろこしく、そこで寿の字に万感も万意も代表してもらひまして、謹んで第一信を御新居へ呈上する次第、お目出たうござりまする。東京はまだく熱雷が来ることでせう。さぞそこでは豪華な夕立が見られませう。小生昨日は納税計算に熱中してゐましたが、二男が鋤石受信機を作りだしたので、その指導にのりだし、いつもよりは余計に働いてへとへととなり、腹がどかべり。柳川鍋に息ふきかへしました。延原さんは八月中旬、山下(赤堤町一丁目)へ移転の由

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年8月1日午(12077)

官製はがき ペン書

今日はかくべつ暑く、汽車で走つておいでの最中のみなさんがたに深く御同情いたしました。走つてゐるうちは、それでも涼しいでせう。停車

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月3日夜(12090)

封書 佐野用箋5枚 ペン書

八月三日夜

昨日はありがたうございました。全く以て意外な御訪問を受けまして、女房にかつがれたかな、かと思つたららみです。お疲れもありませうのに、その他お家のお片づけもありませうに、早く来て顔を見せて下さつて、ありがたう存じました。うれしく、うれしく、そして大安心をいたしました。やつぱり気にかかつてゐたのですね。

お土産に下さつた桃はでかいのにおどろき、そして喰べてみて、味のいやみのないのに感心いたしました。早くも今夜で、すっかり頂いてしまひました。皆々の食欲の旺盛なることお察し下さい。

昨日より仕事を始め、今日も二十枚あまり書きました。今週はこの調子でダッシュいたしますつもり。十分休養したあと故、調子はいいです。昨日「小説の泉」が来て「どうですか。あと先生一つをお待ちしてゐます。一番おそくなつた角田先生の御原稿も明日頂くことになって、いよ／＼先生おひとりが残つてゐますから」といはれ(女房が玄関に出て、右のことをいはれてゐます)、私は襖の陰にてをかしさを怵へてゐました。あとで女房のいふところによれば、「よくもあんなにうそがつけることですねえ」私曰く「しかしさういふ嘘をつくのも仕事なんだから、それでいいんだよ」

それとてにかく私は来る土曜日の七日に渡すことに約束いたしました。(はじめ九日渡しといたつたところ「それでは甚だ困ります、なにしろ××日も発行がおくれましたので…」といはれてとにかく病氣故何ともいへないが土曜日に来て下さいといはせました。

今日の夕方、税ム署の人が二人来ました。大いにおどろきましたね。う

すればたいへんな暑さでございませう。今日は小生も大うだり。日曜日でありますので客来もいつもの顔ぶれとは異り、小栗未亡人\*、中学の旧友、それにおひる過ぎには江戸川さんが来て下さるとの電話がさつきありました。今夕は熱雷必至と思はれます。こんな日に入京第一日を迎へられること故、今日はスペシャル・デーなることをお承知置きされるがよろしからんと思ひまして一寸一筆。猫の仔いよ／＼可愛くなりました。これならルミちゃんのお気になふことであらうと、楽しみであります。暑いので、子供は西瓜を毎日たべたがってゐます。四分の一(二貫匁のもの)のをたべさせたら、昨日はダアとなりしも、今日はもう新しくサイソクをして午前中一ヶをやつつけました。

\*小栗未亡人 小栗虫太郎夫人

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年8月2日朝(12087)

官製はがき ペン書

朝雷に涼気肌爽かに、お疲れの寝心地一段とおよろしきかと察し上げます。こないいい気持の朝は近頃に珍らしいです。故にこれに味をしめ給ふこと勿れ。仲々きびしい暑さが此所続いてゐますから。江戸川さんは昨日そちらへ赴かれし筈。一番乗りでありませう。私は失礼、悪しからず。そのうちひよ／＼お訪ねするかもしれません。朝顔もだん／＼咲き出して、いよ／＼盛夏なり。今日よりそろ／＼執筆再開しようかと思ひますが、右肩こりて咳や欠伸をしても筋が釣れて痛く困ります。まあ、ぼつ／＼と始めることです。

江戸川さんより只今電ヲあり、あなたへことづけ。歓迎会用意に十日以上かかると水谷準の申します故、会は十四日か十五日頃と思つて下さい。いづれその前に連絡しますとのことなり。以上

ちへ見当をつけられるとは何たる事であらう。大いにいぢめられるかと思ひましたが、玄関へ出た娘のいふことに「私用なんですつて」私「なんだ、私用だつて」娘「さうですつて」私「ふーん、私用か。上へあげなさい」と元気を回復して、二人にあひました。文学志望の人で、鱗さんと柳沢さん。それから話をはじめましたが、大分しゃべりました。すべて文学と小説作法のことばかりで、税ムのことは一言もしませんでした。

そのうち又遊びに来てくださいと送りだしましたが、世田谷の作家先生のところを次々にまはつてゐる由。よかつたら、お宅も御紹介いたしませうか。いかが、いかが。

一人は日大の文科の夜学に行つてゐる人、もう一人は他の学校へ行つてゐて、文学志望の人ださうであります。

今日はこれにて擱筆。

皆さんへよろしく。

十三

正史大兄

硯北

あなたは、これまで頂いたどの写真よりも肥つてみました。そしていい顔色をして居られて、大いに安心もいたし、羨ましくも思ひました。

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年8月5日朝(12094)

官製はがき ペン書

成城よりの第一信を拝受。岡山県云々となのが目に立ちます。お宅とうちの距離が急に何千分の一か何万分の一かに縮まつてしまひました。大いに心強いわけですが、これからは同じ地方に在住し、同じ客たちに

接しますので、連絡事項も自然大いに減るでありませうが、又別のものと身近い問題や出来ごとについておたよりを頂きたく、期待する次第です。今日はむし暑くていけません。仕事も三日前からはじめましたが、昨日は慣れないこと故つかれてしまひ、床へはいると本も読まないでぐうぐう睡ってしまひました。一日二十枚を目標でやってみますが、十五枚ぐらゐしか書けません。いよ／＼老眼になつたらしく、よほど目を紙から放さないと二重に見えます。度のよく合ったメガネを渋谷へ買ひに行きませう。

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月6日夕(12096)

封書 便箋3枚 筆書

八月六日夕

当方三十日差立のサクラ行手紙が同封の如き符箋つきで拙宅へ舞戻り一循環いたしましたのでお届けいたします。調べてみますと川辺局の符箋の記載に脱漏があったことが分りました。すなはち「世田谷区成城町」のうちの○印の四文字がおちてゐます。そこで差出人たる私方へもどつて来たもの。川辺局へご注意ありて然るべきかと存ぜられます。

昨日息苦しく顔火照り、いやな気持でありましたがおくれてゐる連載六つの中の特に重大なる三つ目のをぜひと書いてしまはねばならぬので、熱ありと思へど計ったがさいごペンを放り出すことにならうと頑張り、そして后四時やうやくふら／＼ながら書き了へ、そこで検温計を腋下へはさんでみると、なんと七度九分強。なるほどこれでは辛かった筈頭も痛かった筈と、寝ました。主治医かけつけられ、万事処置をしてくれ、夜は楽になつてやすみました。今日は正午に七度丁度。夕刻(只今)六度六分。すっかり楽になりました。夕立頻々で、涼気が急にやつて来

また暑くなり、この上り下りが頻繁なのが、身体にこたへるのでせう。暑いなら暑いで、きまってくれるといいんですが。明日は「小説の泉」の藤間さんに大叱られを覚悟してゐます。

十三

正史大兄

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年8月7日午(12101)

官製はがき ペン書

五日附の御手紙昨夕拝受。なか／＼いい原稿用紙ではありませんか。私がいま武田君に頼んであるのはもつとお粗末で、ずっと薄いですが、それでもやつと探しあててくれたものであります。一万円渡しましたが何枚こしらへてくれますか。とにかく楽しみにしてゐます。おどろかさされた私の発熱も今日は平日よりもずっと低くなりました。これで癒つたのだと自信がつかしました。しかしどうも気持がわるい。どうしたわけかといろ／＼しらべてみましたところ、両方の肩がひどくこつてゐることが分りましたので安心しました。といふのは、これなら主治医によくきく注射をうってもらへばすぐなほる事が分つてゐますのでなほる見込がついたわけ。(もう膏薬紙を貼ることはやめました。主治医の注射の神効をあらはすにしかず)御荷物も無事御到着。うまくお受取りになつてたいへん結構でした。

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月8日(12103)

封書 佐野用箋3枚 ペン書

八月八日

六日附の御手紙をありがたく拝受。五ヶ年計画のこと、私までも大いに

嬉し楽し。払い用一日も早く御実現のほど祈ります。私方も、あなたの真似をして何か計画をたてたいものです。

しかし昨夜もくだらんことを考へてみましたよ。「もう何年生きるかなあ。是非しておかにやならんものは何々かなあ。生きてゐるのにも草臥れた。わしやもうだめだよ。」——これは大兄に大いに叱られると気が付き、途中にて気をかへ、「なあに、病気に負けるな。きさまこの春あたりから調子がいくせに病気に喰はれちまつてグジグジしてゐるぜ。すこしぐらゐの熱や咳や痰などがなんだい。駆足で渋谷あたりまで行つてみろい」と叱りつけまして漸く熟睡。(但しアドルム錠一錠半の効目があらはれしなり)

とにかく昨夜はわりあひ気持ちよく睡りました。睡眠薬アドルムのせいもあります。夕刻村上博士\*に両肩へうって頂いた肩のこりを沈痛する注射の効目があったのが主です。今朝も痛みを覚えますが、それでも楽になりました。本夕もう一度注射をして頂けばそれでもうすっかり癒るでせう。今朝は気分もすっかりよくなり、昨日の「わしやもうだめだ」の気も消散しました。案ずるに肩が凝ると呼吸困難になつて、やり切れないのが主な原因でありませう。

建築設計家のことは、すぐ手近かに適当な人が居ませんが、考へておきませう。甥で、復興院\*に入つてゐる建築技師(若僧)がゐるんですがこれに相談するといひと思ふが、今青森に行つてゐる秋にならないとこつちへ戻つて来ません。大学時代の同期生で佐藤功一博士\*の助手をしてゐた猪野君はどこにゐるか。とにかく考へておきます。

辰野隆\*先生の書齋は仲々いいやうですね。先生の随筆本の表紙と扉に出てゐまして、感嘆中のものです。

十三

正史大兄  
机下  
\*復興院 戦災復興院。第二次大戦後の戦災都市の復興を担当した政府機関。  
\*佐藤功一博士 建築家  
\*辰野隆 フランス文学者  
\*村上博士 海野の主治医  
海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年8月9日朝(12107)  
官製はがき ペン書  
冷水摩擦を再開しました。そのあとで咳きこんで、肩の凝りがひどいので、呼吸困難となり、思はず「苦しい」と悲鳴をあげて家内をびっくりさせました。肩の凝りといふやつに近年悩まされるやうになり閉口です。今夕はぜひ注射をして、ほぐしてもらふつもり(昨夕は見合はせました)。今日からすこしづつ仕事をしてみることにしました。さしあたり「小説の泉」を完成までつづけるつもりであります。少年新連載をたくさんもちこまれたので、断りに閉口してゐます。しかし義理もあつて三つばかりは新しく引受けねばなりません。ます／＼時間は逼迫。それでは一層苦しからうにどうするんだいと自問自答。

近作

納税し金が残らば生きナサイ

やせ我慢オリンピックを聴いてゐる

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月10日夕(12110)

封書 竹々亭用箋2枚 ペン書

八月十日

## 正史大兄

\*陽子 海野十三の次女

○さつきよし子さんと亮一君の御来、美事な玉葱をどっさりありがたう存じました。いづれすき焼鍋にて頂きませうと楽しみに加へました。

\*陽子 海野十三の次女

○今日も陽子\*はかけちがひ、お目にかかれず。お二方がお帰りになると、すぐそのあとで帰宅いたしましたして、残念がって居りました。

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月11日朝(12113)  
封書 半紙6枚 筆書

八月十一朝

○「小説の泉」が、私をあきらめて下すつたので(昨夕)、おかげで今日は静養に専心することができ、まことにありかたいことです。昨日までは寝てゐても気が気でありませんでした。

御ハガキ御手紙拝読。税務署。美談は快的。ようございました。東京へおかへりあって、尚そのうちお宅へ伺つたとき詳細署の心意気をきかせて頂くことにいたしたく。

○この原稿用紙は武田君に頼んだもの。

「小説の泉」は私は勘弁してもらひまして目下さばくですがあなたは御同情いたします。あれはとても五百円などといふ稿料ではやすすぎます。小生本日よりぼつ／＼仕事にかかるつもりなれどいよく猛暑にてピツ

今日出来上つて届けてくれました。百枚綴がたつた、三十八冊。「へえ、これで一万円かい」とおどろきながら、割算をしてみると、一枚が二円六十銭ばかり。「うむ、たしかに間違いなしだわい。これは原稿料をもっと高くしてもらはにやり切れんぞ」と結論を得ました。

ちよつと動くと、すぐふら／＼息が切れ、情ない事です。昨夜は寺田寅彦先生\*の死床記録を主治医氏が書いてゐるのを熟読いたし、変な気

○これからの機会あらばちゃん／＼原稿用紙をつくることにしませう。

○今日の暑さは又格別なり。とても蒲団の上では寝てゐられず、昼寝を中止して起りました。このへんが暑さの峠であります。仕事さへな

持に陥り、アダリンをのんで睡りをもとめました。四時間経つてアダリンは約束どほり一度ぼつと目をさませましたが、この時夢を見てゐたことに気がつきました。何でも私が青年寺田先生。うちの家内が、その許婚のお嬢さんといふ役割でありまして、さめて苦笑。

○今年は糞虫が多く発生してゐます。

先生は胃潰瘍からいつの間にか胃内に癌腫をもつて居られ、それが死の

○親猫が、あれ以来家に居りません。もう一匹の仔猫がご近所に居るので、そこへ行つてゐるのでせう。乳をのませに行くのです。

三ヶ月ほど前から骨を犯してきびしい疼痛を生じ、就中脚部、肋骨がやられ、のちに腰椎までがやられてレントゲン写真をとると、骨がすつかりとけて吸収されてなくなつて居り、疼痛はこの過程において骨をはなれる軟骨と筋との間に生ずるものなる事が判明、死の数日前に到りては

○皆さんよろしく。

れる軟骨と筋との間に生ずるものなる事が判明、死の数日前に到りては

遂に頭蓋の前左頭骨がやられてコブになり、脳髓を圧し、先生の意識は

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月13日朝(12116)

濁濁し言語不明晰となられやがて死の転帰をとられしと書いてありおどろぎました。先生の最後の講演を聴聞したのはその年の春のことかと思

十日附のお手紙を有難うございました。ピカといふいい名がつけました由。うちの皆もそれを承り大よろこびです。母親(猫の)は昨夜もうるさく鳴いて廊下を歩きまはり閉口。もう忘れてもいい頃と思ひますのに、

ひます(先生はその年の十二月三十一日午すぎ死去)。

(いつもなら一日二日で忘れる)今度は仲々忘れかねてゐるらしく、タ

いつも死ぬ人の場合とは限らず、日夏耿之介先生\*の二十年(?)闘病して快癒の病床日記も、熟読してゐます。 吉田絃二郎先生\*の「わが人生と宗教」を読みかけていますが、これはもちろん病床ものではあり

マ公もやうやく一疋前の母性を備へるやうになつたのでありませう。徳川さん\*の著に「チコ二世伝」なる猫伝あり、これを一両日前読みまして興味津々。徳川さんのよさを再確認いたし、ます／＼長生きして頂きたく思ひました。

ませんが、苦痛にやり切れなくて途中たび／＼本を伏せました。先生にはお子さんがなくてお気の毒。御夫婦中は非常に円満にてよくお二人連

お風呂は素敵であるらしく羨望。うちももっと生活が楽になつたら湯殿はぜひ改築したいと思つてゐます。昨日は従来になき気分よき日でありましたが、夕刻になりて熱発七度四分、そして両肩が急に猛烈にこり出

でお出掛けのところを見ました(目黒がお好きでお二人で汗を流しながら歩いてゐられるところへぶつかりしこともあり) お宅でも羨しいほどでしたが、先生の今の心境はわれ／＼凡人にはきびし過ぎます。

しました。昨夜も寝苦しく、今朝になりて稍緩和いたしました。肩の凝るたびに熱が出るらしいです(発熱時間は短し)昨日小型の原稿用紙へ急いで十枚ほど書いたのが、原因の一つでありましたらう。

先生としては求めて自らさびしい極限のところ立ってゐて、天下のさびしい人達へ元氣を送つてゐられるのでせう。

「蠅男」の改装本も七月末に出しましてやはり成績よろしからざりし由。或る少女雑誌\*が、「蠅男」をぜひ子供劇として書きなほしてくれ、三十

昨夜はタマが仔猫を呼んで廊下を歩きまはりちよつと気の毒でした。もう今日はそんなことはないでせう。

よりカンタン相照してゐる仲ゆえ「よろしい引受けました」と引受け

今日も風なくただ暑し。元氣を出しませう。

す。今日はこれにて。

客来のベル鳴る。これにて。

13

## 正史大兄

## 硯北

\*寺田寅彦先生 物理学者、随筆家

\*日夏耿之介先生 詩人、文学者

\*吉田絃二郎先生 小説家、随筆家

\* 徳川さん 徳川夢声。漫談家、作家、俳優

\* 或る少女雑誌「少女世界」。「蠅男」をジュブナイル版に書き換えた「美しき鬼」を昭和24年2月から連載した

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月14日午（12118）

封書 半紙6枚 筆書

八月十四日午

猫学校の級長さんとルミちゃんから免状を頂いたさうで、たいへん私どももうれしいことです。それに反してカムカム伯父さんの平川さん\*のお宅へもらはれて行ったノラクロみたいな仔の方はフン性よろしからず洋間の絨毯の上へ露骨にやりますさうで、困ります。いよ／＼お仕事はじめの由。これでスタートがおつきになり御快作がもり／＼と出てくること、期待いたします。お尋ねの延原さんの転宅はこの月半ばの頃との話でしたから明十五日の日曜日が書き入れになってゐるのではないでせうか。然るにユーカリ（？）台風とやらが近づきつつあって天気よろしからずお気の毒です。

吉田絃二郎先生の全集は、ずっと前永らく三軒茶屋の古本屋に出てゐました。何度か買はうかと思つたのですが中に一冊欠本がありましたので、たうとう買はずにしまひました。その後いつの間にか売れてしまつたらしいです。「わが人生と宗教」は今迄より一層きびしくこたへます。奥さんを偲ぶくだりのところをわが女房がよんで、「奥さんは幸福ね」と感嘆。目下日夏耿之介氏の「耐病秘記」をよみかかつてゐますが昭和六年から同十二年迄の七年間、はげしい神経痛に悩まれてゐたのが、遂に全癒に至りしその手記であります。辛抱づよきこの先

生に敬意をいくら捧げてでも捧げ切れないやうな気がします。そこへ行くと私なんか病気に甘く、意気地がなく、悟り切つてゐません。病氣

と心と身体と人生と世界と芸術境と宗教心とがぼら／＼である。とにかくもつと自我の強さを必要とします。肩のこり、やうやく軽くなり、本日は呼吸がずっと楽に出来ます。数日前からはじめし冷水摩擦がますます／＼気もちよろしく、なんとかして継続したいものです。仕事は八月一杯気分がいい書きたい時だけに書くといふことにしても二旬、不義理を方々へかけます肚。御示しのとほり、小生は何か一つ大きいこと氣にしてゐることが片づく、ほつとして氣落ちするたち。あなたがそばへ来て下され、延原さんも来てくださるとなつて、にはかに安心を覚え、砂上のくらげのやうに只今なつてゐるのでありませう。秋来ると共に、すこしく積極的に出ます。一、貴宅訪問 二、延原邸訪問、三、神田へ行くこと 四、日光に必ず当ること、五、冷水マサツ続行 六、カメラ再出動（尚、市内ゆきには自動車を使ふつもり）まづこのへんから始めませう。昨日は少し冷え腹にて二食ありしかり所夕飯はにぎり寿司、もちろん喰べすぎて本日は吸着剤\*などさかんにのんでゐます。 十三

正史大兄

\* 平川さん 平川唯一。NHKラジオ番組「英語会話」の講師

\* 吸着剤 特定の物質などを吸着し体外に排出する薬品

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月15日夕（12120）

封書 半紙7枚 筆書

八月十五日夕

冷え腹も多少悪化し、肩の凝りに至つてはますます／＼猛烈を極め、信頼す

る国手\*の毎日の特効注射も今は少々心細さを感じられだしました。軽微ながら熱が出てゐますが（毎ひるから夕方へかけ六度八分から七度四分の間なり）これは肩の凝りに大関係ありと結論しました（私がネ）。国手に伺うとカネが鳴るのかシユモクが鳴るのかといふところらしく、私には結論がつかめません。どうでもいいです。今夕もう一回いたところへ注射針を垂直にぶすりとさし通してもらひます。なんとしてもこれを直す。これさへ直れば、一切合財平常の状態に戻るのであらうと推理してゐます（これも私が）。「本日は終戦三周年。すずるに三年前を回顧しカンガイ無量たるところへ」「布哇\*よりお前へ小包が来てゐるかからハンコをもつて局へ取りにキナサイ」と、干局よりのお告げあり。阿呆らしい、あつちに知人や親類がある位なら、こんなぼろっちい生活はしてゐないし、又戦争のお先棒もかつがなかつたらう。恐らく同居の中川さん\*の間違ならんと思ひました。長男を干局へさし立ててみると（家内が命じたるもの。ワシは歯牙にもかけず、その直後に忘却）するてえと、長男が重いカーキ色の包装紙に包まれアメリカの切手のべた／＼はつてあるのを持ちかへり、縁側へずしりと置きました。アドレスを見るとなんと意外千万、ちゃんとわしの本名が書いてあります。アリア／＼と、差出人を見ると布哇ヒロ市の何某といふ婦人名なり。そこでいよ／＼面喰つて、ちよ／＼日曜でうちに居る中川君に聞かせにやると「それはワシの義理の姉です」とのこと。そこでいろ／＼せんさくしてみると、この前中川君一家の写真を布哇へ送り、そのときの手紙で、かういうわけ

でかかる文士のところと同居してゐると書いたらしい。そこで義理の姉さんかんげきしてこの救援小包を送つて下さつたらしい。（手紙がまだ来ないから、一方的な臆測ばかり）そこで欣然と明けさせましたわ。いや出て来ましたよ。小さいとき少年雑誌の絵に出てゐた宝袋を開いたと

きのよろこびそつくり、いろ／＼出ました。石ケン（化粧、洗濯）六ヶ、チェスタフィールド\*十二袋、布哇一里玉といふ飴玉、パン粉に入れる何ものかの罐入り、タオル、ハンカチ、布地少々、消しゴム二つ（作家ぢやぢやけに）砂糖、しめて六ドル三十二セントなり、郵料一ドル九十五セント。二千五百円ばかりの御惠贈にあづかり、時も時、終戦三周年の当日。三年前のこの日は泣きぬれて、女房と一家総心中を決議した（私が強いわけではない）。ああ、それが三年たつて、アメリカからこんなけつかな御贈与を手にしよつとは、全く思ひがけないことでありました。（肩を頷げ、われの負けなることをつく／＼と感じました。やり直ませう。もちろん心中中止の日から、さう考へたんですが。世界平和のため全力をあげてやります。

十三

正史大兄

\* 国手 名医のこと。医者への敬称

\* 布哇 ハワイ

\* 中川さん 戦後、家族で海野（佐野）家の離れに同居していた

\* チェスタフィールド タバコの銘柄

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月16日夕（12123）

封書 半紙5枚 筆書

八月十六日夕

このところ蚤大発生、昨夜も五匹は捕へましたが、あとはとりがしたか、又はうまく隠れられてしまつたらしい。DDT\*をやけに寝床のまはりや寝衣の中にまきまして、激戦中に有之、昨日は肩の凝りとお腹し

くく」とこの蚤の跳梁にてよく睡られず癩にさまりました。今日は午睡をいたし、(このごろ毎日寝ておます)午後三時半目ざめて熱を測ると七度四分あり。大いに癩にさりました。ピラミドン\*を服用。只今は気持よろし(只今五時なり。六度三分)我を折りて、女房のすゝめるやうに当分ピラミドンを一日二回のみませう(このくすり主治医より頓服用として賜りしもの)。これをのんでおればきいてゐる間気分よろしいのであります。しかし肩の凝りも、もう峠にきたやうな気がします。原稿はほとんど書かず。「書かせると、私は死にますよ」といふ言葉を原稿催促の方へ用意いたしあり、但しまだ使はず。

筆を変へました。今朝大阪の書肆へ頼み置きし谷崎潤一郎\*大人の「都わすれの記」\*到着。ものくしき荷造りにて子供騒ぐこと明けてみますと、これ大谷崎の歌と傍書を主とし文字は有名なる若き夫人\*がものされ(仲々達筆なるばかりか陰翳風韻ありて仲々佳、三嘆す)版画の下絵は和田三造画伯\*。目のさめるほどいいものにて押し頂きたくなりました。今日の日本にかくの如き好本出来る事と、うれしさ楽しさに元気づきました。(価千円也) 寝床にて古川緑波\*著するところの「苦笑風呂」(オンドリ社判です)を読みました。これ又これで頭の上に押し頂きたいもの。食ふ話がたくさん出て来まして、このごろさっぱりアカン小生の食欲をかなり刺激してくれました。乱筆ごめん下され。ルミちゃんにお礼を申します。タマ公に代りて

正史大兄 硯北

\*DDT 殺虫剤

\*ピラミドン 解熱剤。アミノピリンの別称

\*谷崎潤一郎 小説家

十三

「につぼん」一ヶ月先へ伸ばしてくれ、「サイエンス」半分にしてくれ、頼めば同情して何とかしてくれまますので有難いことに思つてゐます。このへんにて…

十三

正史大兄 硯北

\*東光出版 戦後、海野の科学小説を出版。没後『海野十三全集』全8巻を刊行

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月18日(12127)

官製はがき ペン

肩の凝り漸く軽くなり始め、蘇生の懐ひであります。熱の方も一緒に下り始めたらしい様子です。久々に人間らしく呼吸をしてゐます。御説のとほりやがて秋風爽かに吹き入るやうにもなれば元氣を取戻すことが出来ませう。目をつぶつてその日待ちませう。ここ一年半は無理をなすまじ。連日の雨と雷に閉口。蚤いよく、猖獗を極め大閉口。「寶石」に偽肖像を三枚\*かきました。新進のK君、S君、T君です。見たことなき人の顔を、当てずっぽうに描いたもの。武田君これをひろげてみて「当らないもあり、少し似てゐるものもあり」と。この評言にておよそ御察し下さい。しかしエ壺枚につき画料八百円くださるさうで、私のエがこんなに高額にて売れたのははじめてであります。苦笑又苦笑。みなさんへよろしく。

アナタが芸術院会員になるまで、私は生きてゐたい。

\*「寶石」に偽肖像を三枚「寶石」昭和23年12月号の「新人書下し探偵小説合評会」のために、海野がまだ会ったことのない香山滋(K君)、島田一男(S君)、高木彬光(T君)の3人の肖像画を、その作品の印象から想像して描いた

\*「都わすれの記」 昭和23年、創元社刊

\*若き夫人 谷崎松子

\*和田三造画伯 洋画家

\*古川緑波 古川ロッパ。コメディアン

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月17日午(12125)

封書 半紙4枚 筆書

八月十七日午

けふは女房も遂に寝込み、小生が起きてゐます。私が病氣すると、女房が必ず患ふことになってゐます。これは小生の病氣をあまり心配しすぎるためでありまして(子供の場合同じ)要するに心配性。殊に小生の病氣には氣をやみ、私より以上に私の病氣に負け、そしてきつと病んでたふれます。故に小生が病氣になったときは二人前の病氣を覚悟せなばならず、おちくく寝てもゐられないのです。(今度はめづらしく二十日以上床を敷き放しで寝ました)、又女房の方からはせても二人分の病苦を引うけるわけ。半身同志とはいへ、これ仲々負担であります。私は本日は大分調子よろしく、肩も左は殆んど平常に癒り来り、右肩のみまだ疼痛あるも呼吸は楽になりました。腹具合もよろしくなりましたれば脈数も減りました。もうそろそろなほつてくれてもいい頃です。いつも病氣の話ばかりにてすみません。

昨日東光出版\*の須藤社長見えられは已むなく、逢ひました。そのとき大兄の「怪獣男爵」の話をちよつとしたんですが、「なぜこつちへ世話をしてくれませんか」と怒まれたらしい口調。どうか、第二作はぜひ東光さんへやつて下さい。そして出来るだけ永くお書き下さい。小生より呉々お願いいたします。

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年8月19日(12129)

官製はがき ペン書

肩の凝りも殆ど消え、熱もまた下りまして、今日はもう平常に近くなり従つて当然元氣を加へました。只病氣草臥れみたいなものを感じ横になつたり風呂に入りたくなつたり。今日はお宅の前で大ロケーション実演\*有之の由。東京御帰還の記念になります。まさか東京都の歓迎事業でもありますまい。岡山の方々へ御報告になれば皆さんにお宅の位置がハッキリし、そして皆さん目を丸くなさることです。「獄門島」もいよく大団円の由。ご苦心の作、武田君も終戦后最大の探偵小説だと再三感嘆してゐました。よい装幀、製本にて世に出るやう祈つてゐます。お目出たう。

\*お宅の前で大ロケーション実演 東宝の労働争議。会社側の大量解雇に抵抗し、映画監督ほか多数の組合員が祐撮影所を占拠。これに対し、この日警官隊とアメリカ軍の戦車や軍用機が出動、組合員は自主的に退去した

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年8月20日正午(12131)

官製はがき ペン書

先刻東西出版社より「推理川柳」\*について横溝先生のところであなたの手紙を見て来たから九月半ばまでに何か書けとの注文の電話があり、病気がなほればやりませうと女房に返事をさせておきました。この件もつと本腰で研究したいと思つてゐます。今朝はめづらしく赤客に見まはれ(但しうすきもの小量)指折りかぞへると四十五日ぶり。この頃朝ひどいせきをするのであぶないと思つてゐたところ。但し拡大はしない見込み。肩は殆んど癒り、やれくくと思つたところへ、後の狼が顔を出す。やり切れません。朝タン(といふよりも透明な粘液)が肺の中

で咳と共に動き出しますが、そのとき場所と次第によっては、少しばかり呼吸困難を起すことありて、苦しいです。しかしこれはシンケイのせいもあるらしく、目下観察研究中です。病気話ばかりでスミマセン。

\*「推理川柳」海野の造語。推理を含んだ川柳のこと

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月21日朝（12135）

封書 半紙7枚 筆書

八月廿一 朝

お手紙三通拝受。御執筆流るる如くスピード・アップされ、大慶の至りでありませう。恐らく今年の後半は今までの記録破りにお書きになるのではないかと想像します。

東宝の活劇は目下東京随一のスペクタリになりしを、居ながらにして引つけての御見物は、たしかに横正先生東京帰還の歓迎会のプログラム中の一つみたいな次第でありませう。在京の他の連中のよく知らないことを、あなたが一番知ってゐられ、話が出るんだからこれは妙であります。とにかく東宝争議も終って結構。近所へ迷惑をかけて、あたり前だと思つてゐるのでは同情を失ひ、従つてその主張にも同情の士は少なくなりませう。どつちにしろよく仕事をして、仕事で万事を評決して貰ひたいものです。

昨夜出た血タンは、本朝は綺麗に消失いたしました。肩も、まだ右が少し凝つてゐますが、まづこれ位なら大した事でありませぬ（むしタオル法御教示ありがたう。そのうち試みませう）

呼吸困難への対策もいさゝか研究が出来、今朝はそれが起らず。その他身体の調子も頭の調子も涼気と共によくなつて来ましたやう。多分もう御心配をかけないですむところ迄回復したかと思ひます。ありがたう。

十三

正史大兄 硯北

\*「晚翠放談」詩人・土井晚翠の隨筆集。昭和23年、河北新報社刊

\*お嬢さん 海野は晚翠の娘と書いているが、実際には同行の声楽家の娘

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年8月22日（12144）

官製はがき ペン書

只一つのことを除いてあとはみんなOKであります。その只一つのことといふのは微熱（七度五分以下）が昼過ぎから出ることがあつていけません（ピラミドンを正午と后五時にのむのですが）。過日の気管支カタルからこつちの現象です。しかしそのうちに消滅致しませう。あまり気にもかけてゐませぬ。しかし仕事はなるべくしないことにし、またなるべくたくさん寝ることを心懸けてゐます。（この頃は寝床も敷きっぱなし）。今日午前中松陰神社前の本屋まで行きました。と、ひるすぎから七度二分熱が出ました。主治医にあとで聞いたら、微熱の出る間は外出しない方がよろしいといはれました。今秋から今冬にかけ、いよゝく仕事を少くしたいと思ひました。これは仕事によるエネルギー消耗を最小限度に切下げるだけではなく、かねてやりたいと思つてゐる仕事（創作）の計画をたててみようと思ふからです。私も大兄にならひまして計画第一主義といつてみたいのであります。ヨミナホシマシタガコンナテガミオモシロクアリマセンナ

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月23日午後（12146）

封書 半紙5枚 筆書

八月廿三日午後三時

只今昼寝より起きて、胃袋に異常醗酵あるに気がつき、机のところへ行つてせんぶり\*の粉とヂアスター\*とピオカルク\*とを匙にしやくつて口

日夏耿之介先生の「耐病秘記」は仲々おもしろく（単におもしろいといつては、御病人には失礼ながら。とにかく人柄がよく出てゐますので）のこりの頁を惜しみながら読んでいます。又昨日は河北新報社へ頼んでおいた「晚翠放談」\*が届けられ、拾ひよみしてゐますが、これは又これなつかしい物語。先生が若し「荒城の月」を作らなかつたらお嬢さんの危機を救ひ得なかつたらうといふ秘伝あり。それはお嬢さんはアコデオンをひかれるので、声楽家等と共に北支方面へ慰問に行き、或るとき外城に司令部をおく某部隊を慰問したのです。ところが中共軍の大軍がとつぜんこの外城を包圍してしまひ部隊は全滅の外なくなり、従つて不幸なこの慰問隊も運命を共にするしなくなつた。その夜のことです。月は中天に冴えてゐました由。そのとき慰問隊は城の上に姿を中共軍にさらして立ちました。そして月光を肩にあびてこの一団の男女たちは、「荒城の月」をかなで始めたのです。晚翠先生のお嬢さんのアコデオンの伴奏、何とかいふ青年が今宵最後と胸を張つて高らかにくりかへしうたつた「荒城の月」。籠城の勇士たちは泣かぬものはなかつたのでせう。明る朝は城門を開いて打つて出、玉砕するの覚悟でゐましたので、一層胸にしみたのでせう。さて夜が白けかけ、それといふので城門をひらかうとして、念のために門上より敵の様子を窺つてみると、これはふしぎ敵勢が居ないやうだ。そこで斥候を出してみると、おどろいたことに中共軍はいつの間にか撤退したか一兵も残つてゐないことが判明。よつて全軍討死から助かり晚翠先生のお嬢さんもちろん生命を拾はれし由。さるにてもなゆえ中共軍は撤退したか今以つてわからないといふのであります。しかし分るやうな気がいたしますね

を放り込み、それから水をのんで顔中を毛虫のやうに苦がくしてゐるところです。

「都わすれの記」をお買ひもとめになられた由。大兄には一入およろこびの事でせう。しかし私は、あの本を手にして、ちよつと嫉けましたよ、全くの話が。

今日午前は珍らしく原稿の仕事を一つやり遂げました。八月はずぼらを極めるつもりで居たため、編集の皆さんに何度も無駄足をさせてお気の毒であります。次の御約束を一応「表」にかきこんでおくんだがずぼら月故、それを見ようとせせ、その日その日に頭に浮かんだ仕事を、気もちよければやつてみるかなと思ふだけ。

先月も今月もエグミが先行するので執筆にかゝるとわりあひ楽であります。しかし昨夜は煩悶して「おれの筆も落ちたよ、なんてまづい作しか出来んのだらう」とヤケ少し起しましたが今日続きを書いて、すこしく気をとり紛らせました。

大橋家\*もがたびしして来てお気の毒のやうであります。戦争中進一社長に私どもほどの位利用されたか分らず（水谷準がその手先なり）、あれでは極楽往生は出来まいと、途中から私は進一社長は相手にせぬことにしましたが、どうやら最近勘定書がとびこんだらしいですな。

わが姿踏跟として秋風に

昨夜蚤に責められて永い間うつら／＼の間にひねり出した半夢中の句なり 句になつてゐませんが情だけが出てゐるやうです。主情は句に出してはいけないとの事なるもいかなりや。

好きな川柳は、よほど機嫌がよく余裕あり調子のよいときでない時半句も出て来ませぬ。

中川君の細君と子供二人けふかへつて来まして、大阪の粟おこしを土産

にもらひました。

十三

封書 半紙5枚 筆書

正史大兄 硯北

\*せんぷり 千振(せんぷり)。胃薬

\*ヂアスターゼ 胃腸薬

\*ビオカルク カルシウム剤

\*大橋家 雑誌「新青年」を刊行していた博文館の社主一族

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年8月24日夕(12149)

官製はがき ペン書

「末摘花」\*全巻を「推理川柳」の頭で読み直しました。その結果これぞと思う程度のもを僅かに数句得ました。今日はとりのお百姓が枝下ろしをやったので、すごい蚊群がわが部屋に殺到して方々螫され、ぶくつとふくれ、かゆい〜であります。今日もエグミ一件と少年原稿十枚ほど書いて、あとはもっぱら伸びてみました。仕事をすると気がしゃんとして、やっぱり気持ちよろしきも、今のところやはりフウ〜です。無理はせず、そして適当な刺戟となる程度の仕事は毎日やりたいものであります。今年は朝顔の鉢植をやってみました、なか〜むづかしいもので、この頃では日毎に花が小さくなっていきます。地面へ植えたものくらべて横綱と取的位の差です。もっとも鉢植といっても鉢に植えたといふことだけのことです。さっぱり面倒をみてやらないのですからムリありません。

\*「末摘花」 『誹風末摘花』。江戸中期に編集された川柳の作品集

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月25日朝(12153)

ルミちゃんの学校の件は、もちろんうまく行かれることと思ひますが、もうきまりましたか。

うちの近所にコン泥横行。ご要慎なさいまし。(身体、平生に近くなりました)

十三

正史大兄 硯北

追伸 一昨日夕刻おとなりへはいりしコン泥は、茶の間にて家族が食事をしてゐるとき、裏木戸より入りて、家屋のまわりを一巡し表の庭のところを乾してあつたズボン三つ(主人殿は元少将閣下なり)を盗んで去りし由。

夕飯のおそい家では、この手でさかんにやられてゐます。うちも一度この手でやられました。爾来早くたべ終ることにしてゐます。

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月26日朝(12156)

封書 半紙7枚 筆書

八月廿六日朝

よく降りますね、蚤いよく跳梁いたしやり切れません。夜中に度々女房を起し、そして「やり切れん」と私がぶつ〜いへば、女房のいはく「いいわよ。蚤がゐない夏はさびしくて、よくないわ」といったらしい(小生は寝ぼけ耳で聞いてゐますので)。あとから考へると何のことやらわからないが、そのときは寝呆け頭で「女房のやつ、うまいことをいふわい」と感心。なにがなんだか分らないのよ デアリマス。昨日夕刻、食事前、どうも息苦しいのです。ふう〜いふ。例の呼吸困難なら朝にかぎった事。夕刻に来るのはをかしいと思つてゐるうちに忘れてしまったのです。それからしばらくして食事を知らせて来て、立つて行きましたが、茶の

八月廿五日朝

ルミちゃん三九度の大腸カタルに罹られし由、おかはいそうに。しかし悪化せずに御軽快に赴かれしは幸ひ。ぽん〜を冷やしましたか、それとも水がまだ合ひませぬか。うちの子供いつか(去年)新宿へ出て、珍らしくアイスクリームといふものをたべ、その二人とも大腸カタルを起しました。今年はそんなことなしです。もつとも今年にはアイスクリームはフジアイスの御相伴したばかり。もう一軒渋谷の駅を出たところに「箱の絵」入りのうまいのがあるといふことで買って来ましたが、フジアイスのもの(これは本もの)をたべたあとには洗濯石鹼を嘔むやうな感じがしまして爾来アイスクリームの事を子供はいはなくなりまして。これは余談なり。ルミちゃんの家来どの大いに忠勤をいたしておりました。由、ほんとにようございました。脳炎ももう大丈夫。それに普通以上の家には出るものではないやう。村上先生の話に、脳炎らしいとよばれていつてみると二十一とか二とかの娘さん、いつも四十度を越えてみてさかんにうわごとをいふ。三日見たが、親は脳炎ならとどけるといふ。しかし先生首をひねり「いや、脳炎ともちがふふしあり」と。といふのは脳炎特有の昂奮状態がない。しかし他にも内臓その他に異常なし。熱は下らず。そこで虫おろしをかけたところ、これが的に当り、それから出るわ〜一昨日までに二十一匹下り、昨日は遂に三十四匹となり、熱は一昨日より平熱に下がったよしまだ〜出るでせうと先生の話。とんだ脳炎さわぎでありました。この話を、先生が夕刻の食事前に来て詳細如実に話をして下さるので、このところ晩飯が少々まづいのは困つたもの。けだし、こんなひどい蛔虫の害は始めてだと、先生おどろいての話です。

間に入り膳につくとタマ公が下に寝てゐるので、蚤にたかられてはと、私は蠅叩きを手にとつて猫を追ひ出しました。そして食事をしようとしたら急に苦しくなりました。確かに変調です。急に熱くなり、チョッキを脱ぐシャツを脱ぐしてハダカになりましたが、まだ気もちわるく、食事は見るもいやとなり、さかんに心悸昂進し来り、つぎは本格的の呼吸困難が来るかと思はれました。しかしそれは仲々に来ず、一歩手前とところで戸惑ひのてい迄。食膳の皆々心配。女房もたべず、ハラ〜してゐる。小生「大丈夫クック」といへど、どうも大丈夫でない。村上先生を迎へに出すべきかなどと考へてみました。そのときハハアと思ひ当たりました。小生一声を出して「分つたよ。これはコーヒーに酔つたんだ」。皆々分りかねるといふ表情。実は食事より一時間前村上先生来診、そのとき他より貰ひましたコーヒーがあり、これを出し、小生もお相伴しました。うまいコーヒーでした。これが小生の空き腹にはいりし事として今にしてこの変調を来たしたものと判定。実は小生その前に一度経験あり。それはラポール\*へ上陸の日の夕食に、うまいコーヒーが出ましてね、われ〜報道班員十五名大よろこび、もう一杯と従兵に所望して、宿舎に引揚げましたが、その夜一日床にいたが睡られない。私ひとりと思つてゐたら、あつちでもこつちでも「睡られないなあ」「こんなに疲れてゐるのに、どうしても睡れん」「おれもだ」わい〜いひ出して、「コーヒーのせいぢやないかな」と私がいへば「あつさうだ」と皆々同意。えらい目にあひました。おまけに間もなく実装となり(はじめて体験する空襲)敵は何回も来、照明弾をおとし、こつちは地上からどん〜ぱり〜撃つ、負傷兵がはこばれて来るといふさわぎで、その夜は完全に睡れずじまひでした。

「アダリンを持ってきてくれ」女房にもつてこさせて服用。けだし逆に

鎮静させやうというふつもり。これがきいたか三十分ほどして大分落ちつき、食事を始めまして普段ほどたべました。しかしあとで、やはり動くとどきどき、目がまはり、足ふらつき苦しくなります。しづかにしてしばらく待つと癒って来ます。コーヒーの興奮作用とアダリンの鎮静作用とは丁度逆の同形となって居らず、喰ひちがつてゐる部分があるやうに思ひました。且つコーヒーの力の方がアダリンより持続性が長いと思ひました。更にアドルム半回量のもので寝まして、やっと普通よりやわるい睡眠をとりました。右は報告を。もちろん今日はなほりまして何でもありません。取引事税なんものが出ていよ／＼厄介。廿九日誌友の説をお聞きおきの上、あとでお教へいただきまし。

十三

正史大兄 硯北

\*ラポール パプアニューギニアの都市ラバウル。海野が海軍報道班員として派遣された

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月27日朝 (12159)

封書 半紙6枚 筆書

八月廿七日朝

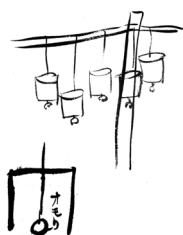
ルミちゃん御快方へおむかいのよし、安心いたしました。当分ご要慎のほど祈ります。水ちがひで腹をこわすといふ事はよくありますこと、これは今更申す迄もなし。いろ／＼と新しくご支出殖えます由。これは当然だし、そしてよくなる事ですから結構と思ひます。かはりにお稼ぎになる事ですが、東京に居れば割のいい仕事、気に入った事を選択できまじ、給料も思ふやうに交渉できるし、仕事は山ほどあり、購入費に愕かれるのもここ一か月の間だけ、あとはすつかり忘れてしまふほど気分

で、本当にさういふものがあるかどうか弁へず) ももはや癒りまして、今日あたり本調子の身体になって来ました。昨日は午後二時間ほど仕事をしました。今日は四時間位するつもり。となりのお百姓田中さん(昔は植木屋さん)の畑のおかぼがよく出来ました。そこで鳴子をつくりました。縄を長くはり、家の前で引張るととがら／＼鳴るといふ仕掛。ところが、これがよく鳴りません。カンヅメの空罐を利用してゐますが、下図のやうに出てゐて、ゴマ



メの歯ぎしり位の音しか出ません。少しアドヴァイスしてあげようかと思つたりおせつかいかなと思つたり。それにあまりよくが／＼鳴るやうになれば、こつちの仕事のじゃまにもなることだしだのと考慮中。

(私の考へでは(一) 罐は一つづつ一カン位の間隔で左右にはなして下げる(二) 罐の吊紐は不同にして、しかも隣合つた罐はどの部分か



でぶつかるやうになってゐること、(三) 罐のふちにあたるやう、罐の中心からひもでおもしをつけること。) くらい自信があるやうですが、これは去年停電つづきで、玄関のベルが役に立たず、そこで空カン利用

の鳴子式ひっぱり信号キを作ったときの経験によるものであります。大阪高島屋が大衆雑誌(季刊)を出すとかで探小を頼みに来ましたが、稿料はいくら出してくれると聞けば、大体八百円から千円あたりでいかげでせうといはれました。いよ／＼千円稿料がころがりこんで来たわけ。但しよろこぶのはまだ早いかもしれせん。季刊ものといふのは単行本に準ずるもので、一番儲けがいいと思はるんですから、もっともらつてよろしいと思ふのですがね。(只今もゴマメのハギシリが聞えました。

に懸らなくなりすよ。夢御心配に及びません。頭脳使用のリンシヨクとは吾が意を得たるおことば、全くさういふ方針でやらない限り、いつ迄たつてもつまらん仕事に追はれてふうふうであります。(只今少年連載十六種あるを如何にせん) せめて十種に切りつめようと心がけてゐるのですが、どうしても書かなければならない義理のものなどが現状現はれて、いつの間にかこんなに殖えてしまふわけ。更に縮少を覚悟し、実現を期してゐる次第です。江戸川さんは、客観的には書かねばならない事情にあるらしいが、しかしやっぱり今年に遂に書かないであらうと私は思ひます。いつもいふとほり私は「陰獣」迄の愛読者です。その後のものは魅力を感じません。しばらく頭を使はないであつて、昨日必要に迫られ筋を考へはじめたら、たちまち長篇のが二つぼろ／＼と出て来ました。こはくなくて、そこで袋の口を締めました。この分なら、まだ／＼ネタには困らんですみさう。頭を休ませておいたご利益を知りました。(廿九日は失礼します、あしからず)

十三

正史大兄 硯北

追伸 うちにはまだ金の余裕あり、もしルミちゃんの件などで至急に入用なときに御間合でなくばさう仰有つて下されば即時御用だていたします故御遠慮なく。右為念。

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月28日朝 (12160)

封書 便箋6枚 筆書

八月二十八日朝

御疲れはもう癒りましたか。あれも引越疲れの一つでありませう。私は病氣疲れ(病氣が癒つてから起る疲れのこと)但しこれは私のアイデア

あれをきいてみると煎豆がたべたくなります。どういふわけですか(うちのハナレをと／＼買ひました。十二万円です。八、六、四半の三間。これにてやうやく居住を脅さるゝことなく、家賃といふものを払はなくてすむやうになりました。一年前に買へば七万円で売つてくれる約束なりしもの。建築制限が緩和すれば少々改造して住みよく使ひよく能率よくいたしたい計画であります。(計画はなるほど楽し)。昨日「獄門島」の終篇の一つ前のを拝読。楽しいことござりました。

十三

正史大兄 硯北

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年8月29日朝 (12162)

封書 便箋9枚 筆書

八月廿九日朝

○ヨコセイドクトルの診療指針ありがたく拝承。拳々服膺(?) いたしましたして、今日あたり日がけりたる頃を、麦藁帽子をかぶつて松陰神社前あたり迄出懸けてみませう。昨日は遂にピラミドン一服ものまず、全部平熱、その他の病状も消えましてたしかに平常状態に復帰いたしました。七八両月間の永きいたつき、此所に漸く消散いたしたる次第。主治医も曰く「あとはたたくさん喰べる事ですね」友ドクトルのおことばを体して新秋と共に、やせた身体に少々肉をつけるやうに心懸けませう。○廿九日の御会二十人とは大盛会ですね。それにしても主客両方おつとめのこと、なか／＼たいへん。○捕物十種とはこれまたたいへんなれど、此の方は「書き損じ」(カゼガフキマシタノデ) 大兄のお腕のふるひどころであり、おやりになれば伊賀越の十人斬りでも骨が折れますまい。さるにても探小すたつて捕物復活とは江戸川老を始めニューフェイス 大家、諸

氏も百考せられて然るべしと思ひます。○内田百閒先生\*の件は、大兄にしてこの事あり得るなりと、敬意を大いに表明します。(わしも一度編集者になりたいと、今さう思ひました)百閒先生の著者はかなり買ひこんでゐます、そしてその人となりは十分に心得、そして羨しく思つてゐる次第。夢声老と共にいつ迄も生きてゐてほしい人の随一。しかし百閒先生、この頃あまりお書きにならないやうですが、私が不勉強で見つけられないのでせうか。○うちの女房の着物の件では、この十年ばかり女房まかせといたし小生はタッチいたしません。それ迄は相談して買つたり、見立ててやりし事もありました。しかし十年ほど前よりは、買物も不自由になり私も忙しくなり、よつて勝手にしろといふことになり(女房の姉が京都のごふくやと取引してゐたので、これに買つてもらつた事もあるやうです。しかし戦災にてこの筋はだめとなりました。今は近所の奥さんを通じて買ふことがある様子)。とにかく私は収入をだいたい二つに分けて、一半は女房の貯金にして、これにて生活費等(きもの類も)みんな支払させ、そして「その方は全部使つてしまつていいよ」と申しわたしあり、もう一半は私の名の貯金にしてこれは税金準備金にあててあります。しかしもちろんこの方はそんなに必要がないので、臨時の大きい支出と、私のこづかひなどはこれから出して使ひます。私の方が殖えすぎると、下局が注意してくれ、定額預金になほしたりします。又自發的に大きなものを買ひます(「必要経費」項目のものを買ひます。(家、本、本ダナ、受信機 家具、その他の工事など)かうして分けて、私の方は普段は忘れてゐることにしてあるので、有事の際しらべてみると意外にたくさんあつたりしておどろくことあり、納税のときもまごつかなくてよろしいのであります。心細きことは女房の方の貯金が枯渇してきたと訴へてくることで、そのときは私の貯金の方から助け水を出し

ます。しかしこの一年ほどはそんなことが起らなくなりました。これからは起るでせう。病中永く書かなかつたし、いまは本の再版新版が一向このところ出ませんので。いよ／＼つまつてくれればまたそのときやり方を考へるばかりのこと、心配することはありません。そこで只今「来客ありて筆中絶」女房は勝手に着物を買つて着てゐるわけ。たくさん持つてゐるわけではありませんが、又大したものはないですが実用になるものはだん／＼揃へてゐるやうです。尚、貯金帳へふり分けの件ですが、その都度二分はいたさず、小切手など適当にたまつたときに、適当の高にべ切つて、こんどは「私」の方へ、こんどは「女房」の方へと、大体似よつた金高にして預けいれます。現金の場合は、一ヶ月間ハコの中へためておいて、月がかはると出して二分します。或ひは二分しない「第三準備金」として保管しておきます。まアこんなことでいい加減にやつて居りまして、気をつかふこと余りなく、楽であります。子供のこづかひも、子供の買ひ物も、すべて女房が管理しますので、私は何も煩はされず何にも知らず。但し相当大きい買物だとか、女房が首をひねるやうな買物については相談をもつて来ます。「お父うちゃん、自転車買つていい」「お父うさん、バイオリン買つていいですか」などと、男の子の相談にかぎり、女の子のことは女房が採決。あらひざらし(楽屋の中をごらんに入れました。ごめん下さい。

十三

正史大兄

硯北

\*内田百閒先生 小説家

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年9月1日夕(12163)

官製はがき ペン書

今日は御見舞をありがたう。もう平常に近くなりましたから御放念下さい。はじめて葡萄をおいしくいただきました。ありがたう。庭の朝顔も末になり、鉢植ゑの分はいよ／＼縮小してあはれとなりました。水と肥料の効果はつきり分ります。地面に植ゑた分はあひかはらず大輪をたくさんつけて、紫だけでも三十位をかぞへる朝あり、来年はもっと親切に作つてやりませう。コスモスも一輪咲き出しました。只今はサルビアが女王といふところ。白いバラと白い水蓮も一輪づつ咲きました。今日より長男、二男、三男の学校行きが始まり、家内の起床が一時半ばかり早くになりました。私はおかまひなしに八時ちよつと前に床を放れます。

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月4日午(12166)

封書 便箋4枚 筆書

九月四日午

日光浴のこと御教へ下さつてありがたう 一つ規則正しく十月頃からやつてみませう。冷水摩擦は毎朝やつてゐます。もう三週間ほどつづいてゐます。気持よろしいので、つづけてやるつもりです。外に女房が生姜湯マサツを手と足とに毎日三回やつてくれます。これも始めてから二週間位になりませう。

咳止めぐすり、目下赤いものも出ないところから、主治医はやめにし、そのかはり祛痰剤を飲ましてくれてゐます。これにてタンが出が楽になりました。しかしセキの回数が多くなり、昨日今日あたり少々うるさくしていけません。とにかく咳止めを呑んでみると、急に大きな執拗な咳が出て苦しいし、赤いものにははる虞れがありていけません。只今のやうに祛タン剤で凌ぐ方がずつと楽であります。

他の諸症状はすべて消滅し、食欲も少しく出て来ました。

仕事は、相変わらずスローモーションです。今月一杯はべ切を気にしないでやるつもり。

この数日仲々暑くなりました。昨日は三十二度にもなりし由(うちでは三十度位)残暑もきびしい方が豊年なのでせう、七八月のやうに暑かつたり涼しすぎたりの変化多い天候はいけません。毎日暑いのならずつと楽であります。まあぶら／＼秋を迎へませう。黍が高くなりました。カメラを使ひたくなりました。

十三

正史大兄

硯北

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月5日朝(12169)

封書 便箋5枚 筆書き

九月五日朝

なんたる暑さでせう。昨夜は寝苦しくて焦熱地獄へ宿泊いたしたやう。今朝は蒸し暑く、たまりかねて今年の夏はじめての猿股一つの裸体となり、ひげをすり、食事をいたし(きうりと茄子のぬか漬にてお茶漬サラ／＼ではなく、流し込みまして)、それから今も同じ姿で(失礼ながら)この手紙を認めて居ります。○只今自由出版を経て高著「黒猫亭事件」拜受。ありがたうございました。どちらもはじめて拜見するやうに思ひます。楽しみです。○女房も今日はへたばり、大頭痛と胃袋気もちわるしと珍らしく寝てしまひました。しかし大したことではありますまい。○昨日は仕事をしようとしたが、この猛烈な暑気の中にして、又身体をそこねてはと仕事は中止。終日寝床に伸びて「大南北脚本集」\*を読み、東海道四谷怪談では涼気を満喫しましたが本を描くと暑いこと

暑いこと、芝居の平土間の熱気が急に感ぜられまして逆効果なり。カミ\*、ウエルズ\*、初期の乱歩、大南北、共に奇想天外派の天才。われに才あらば斯の道を行きたきもの。○先日女房イスを日本橋の緑屋へ買ひに行つて参りましたが、本日の新聞で見ると社長さんが贈賄で検挙。女房曰く「ナルホド、椅子にはつてあるあのキズは、さういふ筋から出たものにちがひないわ。今どき有る筈がないキズですもの」と感心。○客に又会ひ始めましたが、会へば頼まれ仕事を断り切れず、客去りしあとにて、ちえツ失敗つた。おれは甘いよ。○自由出版の例の高利御礼の拂ひ二カ月ほどたまり、拂ひわるし。印税しかり。火の車と見えます。あなたも御催促が肝要です。貸金を先月お回収なすつてよかったです。○庭の朝顔を一群残して二群とりはらひました。それから雑花苑の手入れも昨日女房がしました。その為め日射病を起したのかもしれない。

十三

### 正史大兄

\*「大南北脚本集」 歌舞伎狂言作者・四代目鶴屋南北の脚本集。春陽堂刊の「大南北全集」か

\*カミ、ピエール・アンリ・カミ。フランスのユーモア作家

\*ウエルズ H・G・ウエルズ。イギリスのSF作家

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年9月6日午(12176)

官製はがき ペン書

ボールペンとかいふものが流行つてゐるらしく、それをお使ひになつた手紙が多くなりました。江戸川さんまでも使つて居られる。しかし拝見したところ、みなさん書き辛く見え、字のかすれなど気になり、インキの色も気になりますね。憑將軍の奇禍\*はどうです。ジユダノフ氏\*の急

至宝と尊敬するところ。「探偵趣味」\*や「新青年」の編集当時の持続力を今日尚氏が持つてゐるならば「探作クラブ」\*に於て大いに活躍御世話をねがひたしと思ひます。しかし江戸川会長と同じ方向を指してあの会をやつて行かうといふ気ありや否や、それは事前調査を要しますね。小生好調、赤いものも消失。昨夜は寝そびれてアドルムといふ催眠剤のみました。甚だよくきく新薬にしてシオノギのもの、あなたのチュウウの効果に必敵すると思ひます。六時間何も知らずに熟睡しました。過日御来宅のときの記念写真のうち、スーパージェミ\*でとりし分はまだ現像しませんが、コンタクス\*の分は現像せしところ全部(フィルムの全部)が露出不足で、うつつてゐません。フィルムがわるいのか、先日このコンタクスのシャッターを直した結果、シャッターが正しい時間を切らないのか、その他の原因か目下取調べ中なれど、一度失敗した撮影はとりかへしがつかなくて、相済みませんやら残念やらず。あとのスーパージェミの分は、たいていまちがひないと思つてゐます。

明日九日午後十時にカゴシマから孫\*がかへつて来ます。

### 正史大兄

硯北

十三

\*ウダル先生 大下宇陀児。探偵小説作家

\*「探偵趣味」 探偵趣味の会の機関誌(大正14年9月〜昭和3年9月)

\*「探作クラブ」 「探偵作家クラブ」会報。昭和22年に発足した日本探偵作家クラブの機関誌

\*スーパージェミ、ドイツのツァイス・イコンが製造したカメラ。スーパージェミイコンタ

\*コンタクス ツァイス・イコン製のカメラ。コンタックス

\*カゴシマから孫 海野の長女朝子の長男・育郎

病死はどうですか。ミステリーか非ミステリーの不幸か、とにかく世の中には話のタネがつきませんね。平沢氏\*の筆蹟は本格的に書道習つた立派な字。そして帝銀犯人が小切手の裏に書いた「板橋云々」の文字もこれまた頗る達筆であり、本格にお習字をした筆蹟。ここに於て小生は、これは決定的と考へられる可能性の強きことを感じました(マワリクドイイイカタよ)。暑さにやられて昨日からちよつと熱発。しかし大したことはありません。起き慣れてもうふう／＼いはなくなりありますがいいです。では又

\*憑將軍の奇禍 中国国民党の馮玉祥が船上火災により死亡した事故

\*ジユダノフ氏 ソビエト連邦政治家のアンドレイ・ジダーノフ

\*平沢氏 帝銀事件の犯人として昭和23年8月21日に逮捕された画家の平沢貞通

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月8日朝(12174)

封書 便箋5枚 筆書

九月八日朝

本位田氏のひとゝとなりいよ／＼うれしい限りにて、先日椎名町に新居を建てられしを以て、さては龍になつて天上せられしかと思ひしにあなたのお手紙によると依然たるホンイさんでありまして、まことに至宝といいたし珍重すべき御仁。しかし鈍ならず、ズボラならず、市井に活躍して俊敏なる士にして、このヒューマニズム。大臣にしたいもの。事ムや社長より、よほどつてつけであり、世の中は済度されませう。

ウダル先生\*二十の扉の券のことは、あれは到るところへまき散らして行かれるので、片っぱしから忘却するのせう。大いに催促せにやアキマヘン。うちの子供たちも、もうアキラメトリマス。

水谷名事ム長のことは(名幹事の方がいいかな)わたくしも夙に認め、

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月9日夕(112178)

封書 便箋4枚 筆書

九月九日夕

御手紙拝謝。自由出版社へ奥様が行かれし由。金づまりは此社にかぎりし事はなきも、てまへのところも金話りでございどうぞしばらく御待ちをでは、こつちが利用せられるやうで、油断はなりません。いよ／＼嚴重に、検印引替主義、原稿引替主義たらざるを得ず。さりながら、この時世、稼げば稼いだだけ三重四重の税金にまき上げられてしまふので、私はこのごろ最小限に働き、最小限に出版し、時勢のよくなる日迄消極的にならうかと考へました程。しかしそれでは世の中に貢献するところが大いにうすくなるので(アヤシゲなる大衆小説やコードモものを書いて、一時の慰安係をつとめてゐるにせよ)、やっぱり大いに働き、ぢやん／＼原稿もかき、本も出すべきであらうと思ひ直しました。しかれども、さはさりながらでありますよ。本日睡し。暑くてやり切れず。遂に意を決してコーヒーを入れさせ、さつき目をつぶつて、えいット呑み乾しました。おいしかった。只今シャツキリいたして来まして、筆もいつになく元気に調子よくすべります。今日は心悸昂進起らざる見込ナリ。延原さんもいよ／＼世田谷住人となられし由。長男と同じ年級に須美さん\*の坊ちゃん\*が居まして、本日その事を晴彦が聞いて来ました。大兄こんどはよき原稿用紙を手に入れられましたね。庭にサルビアひとり咲き競ふ。

西田さんも過日「此の秋は、横溝君のところへ行つてしばらくイソーローさせてもらふ楽しみあり」と手紙にありました。老を元気づけたきものです。

十三

\*須美さん 不明

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月11日午(12185)

封書 便箋5枚 筆書

九月十一日午

遂にどうにも抜きさしならなくなつて、昨夜は夜業をいたしました。当分夜業をつづける必要あり。さうでないといふ、どうにも始末がつきません。昨日は結局二十四枚書いたことになります。今日はいかがなりませうか。夕方までに廿五枚ものを渡す約束のところ、只今一枚をかいたるばかり。しかも午後は「世界少年」\*の豆記者たちがやって来て、私との会見記事をとることになつて居り、気が気でなし。いや、「気が気でない」のは、もうやめる事にしたはず、「どうでもなれ」で行きませう。

乾君、「宝石」を叱りとばし、ついでに探小作家への叱責を武田武彦君の頭上へとばした由、「参りました」と昨日武田君が来ての話。乾君の説は大いに正論でありまして、小生普段より支持を惜まざるところ(小生も氏から叱られる一員なれども、それはどうでもエエです)、土曜会\*の江戸川臭紛々を排撃することの第一者である乾君の説を御参照なされたく。

探小雑誌「仮面」廃刊、「黒猫」\*も終刊号が出ました。もろくの探小雑誌が相ついで波間に沈んで行くのを見るのは愉快であります。今こそ探小の本質を看取せよ、と新進探小作家たちへも申上げたい。しかし、しつかりした探小雑誌をせめて二つ三つは持ちたきものです。これまでの如き乱立は、始めから不自然でありました。さるにても理解ある資本家と、ねばり腰の編集長は居ないものか。居りませんかねえ。

旬刊ニューズ\*増刊の似顔は、人相わるくて、なるほどこんな人相だから、

あんなひどい血みどろを書くのかと、読者を納得させる魂胆か。これは写真のみによりたる画なることの欠点。似顔は本人を見ないで描く手はないと思ひますが如何に。松野さん\*の描く似顔エ(水谷準の油エはカシン致さず)のよきなどといふものは、こんどの「旬刊ニューズ」のそれに比べると国宝級ですね。これより午飯。ではまた。

十三

正史大兄

\*「世界少年」世界少年社発行の少年雑誌。昭和23年11月号に「海野先生を訪ねて世界少年豆記者」の記事が掲載されている

\*土曜会 探偵作家たちの親睦会。探偵作家クラブの前身となつた

\*「黒猫」 イブニング・スター社発行の探偵雑誌

\*「旬刊ニューズ」 東西出版社発行の雑誌

\*松野さん 松野一夫 画家。雑誌「新青年」の表紙や挿絵を手がけた

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月13日朝(12195)

封書 便箋8枚 筆書

九月十三日

お手紙三通本朝拝受。豪華版であります、多謝。おさとしの條々深く感謝。原稿用紙の事もたしかにありませう。昔のやうな舶来上質印刷機の内用紙はいつになつたら手に入るものやら。とにかく極力さがしてみます。そしていいものを見つけたらたくさん作りたいです。しよつちゆう変るのはいけません。大兄方々からの長篇依頼責めのお形。「ロック」はどうかと思ひますが(ぼくは成田氏といふ人物が嫌ひ。私行の点に於ても)「新青年」はぜひともお書き下さい。「新青年」の名を持ちながら、

敗戦后今迄のやうな「新青年」でうろろされてみたんでは、私たち「新青年」出身者は、甚だ寂しく、不愉快でありやり切れませぬ。原稿の一紙と共に、紙もかへること。あのいやに手にこはい厚い紙は感じがよくありません。

残暑といひ、本年の猛暑といひ、東京物語の御苦労といひ、大いに影響して居られませう。もっとも明日あたりより涼しくなるさうですから、

そしたら御元気になる事請合。それ迄は畑の方のお仕事を楽しくなさいます。小生今朝ははじめて「これが心悸昂進かいな」と思ふものを体験しました。約二三分間。どきどきして来て、手足少しく冷え、額に汗が出て来て呼吸苦しくなりました。丁度食卓について、これから箸をとりあげようといふ直前のこと。もちろん箸はとらず、窓を開かせ、着物を脱いで上半身ハダカとなり、不安の心のうごきを見まもりながら、しばらく耐へてみましたら、間もなく治りましたが、それから飯をくひ出してからも二度ばかりその前駆と覚しき手足冷えて来て腹工合おかしくなる事ありしも、克服しました。七八の両月の病臥と夏の疲れと其他の事相にて、このところ神経が細くなつてゐて、何でも気にかかり(特に病氣や身体のこと)、それでこんなことにもなるんだと思ひました。今日よりは体温計をしまつてしまひませう。病氣のこと、脈のこと、呼吸のこと、足の細り、顔のヤセ、熱、タン、せき、息切れなど、みんな忘れてしまひませう。戦争が終る迄は、自分でも自信があつたほど克己心強く、太々しかったのですが、その後虚脱やら咯血やら以来弱氣の底まで落ちこみ、どうやら今がそのドン底に在るのではないかと思ひます。この辺で立ち戻りませう。散歩もやりませう。家に引籠りばかりはいけません。よろしく又お叱り下さい。

昨日は二十枚ばかり書きました。今日もこれより二十枚書かうかと思つ

て居ります。書いてりや、へんな症状は起らんですから、そこにカギがある筈です

正史大兄 硯北

十三

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月14日朝(12196)

封書 便箋6枚 筆書

九月十四日朝

昨日お知らせしましたる心悸昂進症の件は、夕刻になつて主治医が見えたと報告しましたところ『それは心悸昂進ではありませんね。額から冷い汗が出るなんてことは心悸昂進ではなく脳貧血です』と指摘されまして、その臨機手当を教へられました。右につき訂正いたします。女房いろくくと又心配し、いろくくと気をつかふので可哀想やらやり切れぬやら。ところで今朝は、脳貧血まで行かなかつたですが、その手前あたりまで行きました。そして一つの発見をしました。

つまり、この症状は、冷水摩擦に原因してゐるのです。昨日はさう、今日もさうでしたが、このイヤな気分は湯殿で冷水摩擦を了へた直後にはじまるのです。あれは、この二三日相当水がつめたくなりましたので、ヒヤリとします。するとゾーツとする。それから始まるのです。

昨日と同じ筋道で、今日もやってみました。そして細心の観察をしながら、ひげそり作業、歯みがき、冷水マサツ作業、髪の手入作業と注意をして行くうちに、冷水マサツで上半身の部を終へたところあたりで少しおかしくなり、下体にかゝると、いつもなら爽快なのがイヤな気がしました。そのあとがいきけません。まだ冷水マサツをするだけの体力がないのでせう。

明日は、この冷水マサツをやめてみます。その結果気分が悪くならなけ



ルを買いました。これも五十円であったことを憶えてみます。他の店で二十二円五十銭で買った鳩時計と共に、私が銀座で掘りだした三逸品(?)であります。この三品とも、いづれもウゴキますところが、私の好みであります。

停電頻々で、ホームライトの活躍は久しぶりです。今日も充電してやらねばと思つてみましたところ、早くも只今停電となりました。停電をするのが大好きな配電会社であります。

昨日嵐について、新文庫社\*の方が見え、「横溝先生から、ぜひおたづねするやうにといはれました」との口上で、嵐の中のことであり、例外の面会をいたし、十枚犯人探しの原稿をひきうけました。先づ報告をいたします。(このごろは、原稿の来客にお目に懸らないことに慣れてしまひました。なにしろ楽ですし、仕事のジャマがされないでいゝです。)目下連載の峠を越えかけてみます。幸に肩も凝らず、他の病状も消滅し、大兄予言のとほりハツラツ(とまでは行かないにしても)たる秋を迎へられさう。仕事はますく減らませう。

十三

正史大兄 硯北

\*アネロイド式 空気圧によって気圧を測定する機器

\*スターガット スピーカーケーブルの型

\*新文庫社 「新文庫」を発行。海野は同誌23年12月号に「隠れ湯の殺人」を発表

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年9月18日正午(12200)

官製はがき ペン書

百枚もの、スタートをお切りになりし由。フレ、フレと、応援をいたします。四十枚を一日での御力漕、うらやましいことあります。

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月22日(12202)

封書 便箋5枚 筆書

九月廿二日

今日はお祭\*で、太鼓の音がしてゐます。風の間、わっしよいゝの声も聞えます。昨年はおみこしがうちへ来て面喰ひました。今年はその備へて赤飯、煮染、それに合成酒を少し用意してあります。何とかかとかいふものの、秋祭は一年に一度の、土地の若い者や子供の楽しみですから、楽しく盛大にやらせたいもの。

萩が咲きました。女房の好きな花の一つ。梅もどきが赤くなりました。

只今孫がばたくと駆けて来て顔を見せて行きました。頬つぺたに紅をのばし、鼻の先にお白粉をぎゅつと引いて、よろこんでゐます。うちの小若です。

浅草に永いことゐましたが、あの頃は盛大でした。いづれあんな風になる日も来るでせうが三年先か四年先か。

旬刊ニュースのために「探偵川柳抄」\*を書きましたが、まだ本格的に調べてないので、読みかへして不満を覚えますが此度は此の儘出します。

只今客来(中部日本新聞の小村氏)につきちよつと筆をおきます。

「婦人とこども」\*に三枚十回の連載冒険ものを頼まれました。十回ならと引受けました。知つてゐる人でもありますので。原稿料のことはいはず。ここはまともに呉れますので、委せてみませう。

偕成社が「怪獣男爵」を頂いたのでたいへん悦んでゐました。次は東光出版社へ書いて下さい。

おみこしの声だんだん近くなつてきます。いつも雨ですが、今年は本当にいい廻り合はせです。このへんにて今日は失礼。

小生も今日と昨日とで四十枚をやつつけませう、二日がかりですよ。今日も快晴。やつぱり気持ちがいいです。前歯がブラ〜となり、厄介です。三枚の歯がブロックになり、両端は生きている歯を利用して金をかぶせてあるのに、その一つはとう〜ぬけてしまひ、他方は半分ブラ〜。片足の綱わたりといふわけ。そのうちお目にかかったときには、前歯のないおじいさんとして大兄を笑はせることになりませう。因に小生歯医者は大々嫌ひであります。只今の弱体では、歯医者通ひも出来ず、当分ハヌケのまま暮すほか方法なしと思はれます。ローライコード\*U型は先日三万円の呼値のところ、今は三万五千乃至四万となりし由、インフレはまだ滔々!

\*ローライコード ドイツ製二眼レフカメラのモデル名

海野十三 横溝正史あてはがき 昭和23年9月20日(12201)

官製はがき ペン書

日曜はめづらしい客が相つぎて来宅。夜まで大いに楽しく暮しました。私の如き者を、はるばる見舞つて下さるお人のあるは、なんたる果報者でありませう。ちやうど三男の誕生日で、お客さんのひとりを加へて、にぎやかに祝ひの膳をすすめました。但し小生二日前より風邪をひいてゐて小熱あり、えらく厚着をしまして、それでゐて寒むがってゐました。風といふやつを私は大いに嫌ひ、且つおそれます。大兄はしからざる様子。うらやましいことです。藤の寝椅子を一台買ひました。古ものです。三千八百円なり。なかなか寝ごちよろしきも、ぼくの好きな横になつて、ゆでたえびのやうになつて寝ることが出来ないのがイカンですが、そんなことは注文するのが無理。普通の寝床も敷き、あつちへはいつたり、こつちへあがつたり、ぜいたくなことです。みなさんへよろしく。

十三

正史大兄 硯北

\*今日はお祭 かつて9月21・22日に行われていた若林稲荷神社の秋祭りのこと。現在は「若林鎮守三社例大祭」として9月第2土日に行われている

\*「探偵川柳抄」 「旬刊ニュース」 昭和23年11月号に「江戸推理川柳抄」を掲載

\*「婦人とこども」 「婦人と子供」。中部日本新聞社発行の雑誌

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月23日午後(12203)

封書 便箋6枚 筆書

九月廿三日

昨日のおみこしには百人ばかり町内の若い人やオッサンや小若が来まして昨年よりもたいへんな賑やかさ。用意しておいた酒、こはめし握りにしめ、するめなど、たちまちきれいに捌けてしまひました。

おみこしの帰へりしち一時間半のち、門前に蛇が居ると、うちへ来て、うちからかへる私の友人(河野廣中の息子、技術者)が見つけました。このあたりには珍らしい出来事。トグロを巻いてゐたさうで、子供が追つかけてゐたやうですが、殺したかどうか。小さい山かがしであつたらしい。どうして何年ぶりに蛇が出て来たか分りませんが、気象の方から寺田式に解く方法もあり、捕物帖式に解いてもおもしろからうし、如何ですな。

昨年の昨夜は、となりの農家の五男が、見張小屋の中にて青酸カリ自殺を遂げ、昨年の今朝はさわぎでした。

昨日この家へおみこしが入つていったのに、オヤヂさんはそれを迎へようとせせず、うちの垣根の近くの大根畑の手入れに熱中してゐるのでふしぎと思ひましたが、あとになって、さうさう、昨年の今夜はと気が

つき、オヤヂさんの心中を図って同情いたしました。

本位田オッサンの親切は今にはじまったことではないので今更感心するのもおかしいわけですが、国宝ものでありますな。ニハトリは、猫よりも犬にはいりこまれるおそれあり十分しつかりした小屋になされたく、特に犬は土台のところを掘って大きな穴をこしらへて入りますから土台のところは土中深く厚い板をうづめ、しつかり防御をしておくことが肝要と思ひます、これはうちでの体験です。うちの子供は映画は渋谷で満足してゐるやうです。もうすこし大きくなったら、それでは満足しなくなると思ひます。では又

正史大兄

十三

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月24日朝(12204)

封書 海野十三用箋2枚 ペン書、一部鉛筆書

九月廿四日朝

二十二日附のお手紙ありがたく拝読いたしました。ザラ紙に、ペンで書くと、滲んでどうにもなりません。万年筆だと、この位にゴマ化されて、まづ間に合ひます。(インキの出がすくないためでせう)しかし万年筆はペンよりも肩が凝りますから、諸効果をサムアツプすれば、同じことになるのかも知れません。

要は万年筆の軽くすべるのを見つけるのが得のやうです。

長谷川修二君健在を承り、うれしいことです。

うちでは、このところ三人の子供の誕生日つづきで、十九日、二十一日、二十三日(聯合誕生祝の日)、二十五日と、ごちさうだらけにて胃袋も悲鳴をあげてゐます。結局魚になり、そして刺身又はにぎり

寿司と生魚がつづきますのでねえ。

さしみも、マグロ、タイ、イナダ、ヒラメ、スズキ?、エビ、カツオとなりまして、どれもたべあきました。二三年前のことを思ふと、ゼイタクのかぎりです。

うちの近所では、アイオン台風\*通過の前夜、ひどい雷鳴あり、そのとき旋風起り、一丁半ほど離れたところのお湯や外五軒の屋根がカチャ／＼となり、トタン屋根はまくられて飛ばされ、家の中はずぶぬれとなり、今以てそのトタン屋根の行方知れず、瓦葺きの家は瓦がとんでしまつてすごいいたらく。しかもこの五軒以外は平然としてゐるのでふしぎです。

もつとも松陰神社の杉が、折れました由。上馬から始まつて、その方向へ旋風がすすんださうです。

○女房からのことづけ「過ぎさしあげましたキップでお買ひになりましたか。今、うちの方ではあれで手拭が買へます。(ヤミ百円位のものが十数円でかへる)もし御必要なら、買ってさし上げてもよろしうございます(モチロンキップ入用)。あのキップは本月末までしか使へませんから、お忘れなく」

やつぱり万年筆でも、肩が凝りますね。もつとも右に用いたものは原稿かき用のものではない細い万年筆でした。原稿用の太いものは、もつと楽にかけます。このエンピツで書くと楽ですが、これよりも太い万年筆は一層楽であります。

とにかく肩の凝らないことが第一。これがその太い万年筆(軸が太いのです)であります。大いに楽であります。

千歳局さんが、あなたの住所の右のところへ、しきりに紫インクのハンコ「東京都千歳局区内」と捺して来ますが、私は常に無視してゐます。サー

ビスを忘れて、自分たちの楽になることを図って、「局区内」を強いるなんて、サービス官庁の精神のクサリを証明してゐます。民主主義は遠い哉です。

正史大兄

硯北

十三

\*アイオン台風 昭和23年9月16日に関東地方に上陸し、各地に洪水の被害をもたらした

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月25日午(12205)

封書 便箋6枚 筆書

九月廿五日午

昨日ちと身体の調子がへんでこれんです。脈拍早く鼓動が大きくなりイヤな気持。昨夜も何遍か家内を起しました。前々より多少此の病状あるやに見えないではなかったですが、かうハツキリ出て来られてはやり切れません。心悸昂進といふべきか、又はもつと云ひあらはし方のあるものか、小生には判定いたしかねます。昨夕からとつぜん起つたので(今日も起ることあり)原因となるべきものを昨日の出来事の中から探してみますと、サントニンを三回に分けて一日量をのみし事。主治医が、小生の脈速きに対してビタカンファを静脈へ一本してくれし事。長崎医大の原子病患者永井博士の著「この子を残して」\*を夜、床の中にて熟読せし事などです。其他主治医と、自分の病状について討論(といふほどのものではないが)をし、小生は小生の容態を先生の語調やその他から掘り出さうと試みた事もありませう(その結果小生の獲たものは少しく悲観的なものでした。これは蓋し誰でもさういふ場合は、悲観的材料を掘り出さないでゐられないでせう。但しさういふ悲観は一時だけの事で、

三四日経てばけろりとわすれるものです)。とにかく神経衰弱に罹りかけてゐるらしい。阿呆であります。この阿呆の爲めにそのうちお身体の御都合よろしきとき、お顔を見せてやって下さい。(急ぎませぬ)そしてゴツンと叱りつけて下さい。

——このところ主治医が来てくれました一時攔筆

ビタカンファを今日は皮下注射してもらひました。それからあと来客一件あり、それに会ひまして、遅い昼飯をとり、只今コタツ机の前に座つたところであります。もはや気分普通であります。今日は病気咄ばかりですみませぬ。

萩の花が咲き乱れてゐます。風も爽やか、いゝ気持の気候になりました。(口今はさやうに楽しんでゐます)

今朝写真キヤが来て、すばらしいローライレフ\*を見せてくれましたが、値段も又すばらしいものでした。あるところには、あるものです。ローライコ、ド、U型が三万から四万五千の相場の由

正史大兄 硯北

十三

\*「この子を残して」長崎の原爆で被爆した永井隆医師の隨筆。この年ベストセラーとなつた

\*ローライレフ ドイツ製二眼レフカメラのモデル名

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月26日午後(12296)

封書 便箋6枚(原稿裏面\*) 鉛筆書

九月廿六日 午後三時

奥様が見舞に来て下さつてたいへんうれしいことでした。おかげにて元気を加へました。あなたは咳にお悩みの由。同情いたします。吸入がいいと思ひますが、

如何。リンサン・コデイン\*も少々ありますから、御入用ならどうぞ。

今日は私の心悸昂進開始第三日目です。昨日まではそれが起りましたが、今日はまだ起りません。起りさうな気配のするところまでは行くが、そこでおちついてしまひます。一昨日よりも昨日が楽。昨日よりは今日が楽で、だん／＼軽くなつて来ます。余震みたいな現象です。どうぞ御安心下さい。もう大丈夫です。

どう考へても、三日前の初日は何か原因（きんげん）があつたに違ひないと思ひます。遠因はパージ問題\*に在りと思ひます。

昨年十月から今年三月まで大いにこたへました。

蛔虫は、出たのか出ないのか、自覚的には分りません。

ホームライトなどの修理の件、沢井君へハガキを出しておきましたから近日参上いたしませう。（冬季に近づくと、停電が多くなりますよ。二月頃が最悪でせう）

里芋をありがたうございました。このごろ歯がわるいので、昔はきらひで全く口にしなかつた里芋をこの節は、「こんなうまいものがあつたか」とたべてゐる私です。お笑ひ下さい。

このところ仕事も中止してゐます。今日は小栗虫太郎ののこした只一つの少年ものを、水上幻一郎君\*に書き直してもらつたものをひろげて手をいれました。これが本日の最大の仕事でありました。

——日が变りまして今日は廿七日

昨日は、右のところにて主治医来診。いろいろ注射をうってもらひました。そのうちに、二男暢彦の先生が来宅、（自宅訪問）とかいふもので、小生も引張りだされて一時あまり喋らされました。

今日は、右の喋りすぎのためか、少し赤いものを出しました。（「赤微小交ル」と日記へ書きつけました）

たのに対し女房が本気になって、毎日スキ焼き、オイル焼、ビフテキと変れど、毎昼食に牛肉をくはすので、今日は早くも悲鳴をあげ、三日に一遍ぐらゐにしてくれと懇願しておきました。女房のひっこんだ臉も、今日は回復した模様。立つてゐた姿勢から、急に下を向いて、手に力を入れて引出をあげるとか、ラジオをいぢるとか、さういふことをすると、アレが起り出す傾向あるを発見。よつて、さういふことは、女房を呼びつけたり、子供に命じたりして用を達し、時には自分の足の指でやってみますが、これはよろしからず。結局身体はどこかへ力を入れて、身体をかたくするといけないらしく、腹がへっこんでゐるときなどは、よろしくないやうです。秋色爽かに、庭は狭けれど、眺めてゐると見飽きませぬ。ほんとにいい氣候です。こんないい季節に、病氣してゐるなんて莫迦々々しいことです。

この心悸昂進症が癒れば、それで私の永年の病体もケリがついて、平常体に戻るのではないかと、そんな気がいたします。（本位田先生が来訪されたらしいです。ここにて擱筆）

正史大兄

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月29日朝（122208）

封書 便箋4枚 筆書

九月廿九日朝

お手紙をありがたう存じます。今以て咳と痰とにお悩みの由。深く同情いたします。寝てゐるといふことは、早く癒る妙諦なれども、たしかに退屈。本も読みふけり、そして読み飽きます。私の場合も、寝てゐた方

心臓の工合は、悪くありません。そのうちに心悸昂進症に注意力を集中することに飽きて来て、気にしなくなり、そしていつとは知れず癒つて行くことと思ひます。

本日はすばらしい秋晴れ、気もちよく庭を見て居ります。写真キヤ氏に例のローライレフを貸してくれといつておきました。それが来るでせうから、一本うつしてみるたのしみあり。「この前の記念写真はまだカメラの中にはいつてゐます。」では又

十三

正史大兄

\*原稿裏面「超人間X号」（昭和23年8月〜24年5月「冒険クラブ」連載）の草稿。P25に画像掲載

\*リンサン・コデイン 咳止め薬

\*パージ問題 海野は昭和22年2月から23年4月まで公職追放の仮指定を受けた

\*水上幻一郎君 探偵作家

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月28日（122207）

封書 原稿用紙（K・H・K製）3枚 鉛筆書

九月廿八日

お咳はどうですか。

私は、大分軽快です。しかしまだとき／＼軽度のもが起つたり起りかけたり。すぐにはなほり切らないのでせうが、こんなものにとりつかれたと思ふと、あわてます。

平沢氏も自白したさうで、本当なら結構ですね。平沢氏なら心悸昂進症なら起すまいと、羨しいです。

主治医が、半ば冗談に、「毎日でも牛肉をたべるといいですよ」といっ

がいらしいのですが、寝るのが嫌ひですから、起きてゐます。主治医は、「急に動いたり、早く歩いたりしなさんな」と注意してくれます。歯もぶら／＼。歯を抜く必要あり、それには麻酔薬を歯ぐきに注射しますでせう。するとそれは心臓へこたへますから困ります。躊躇してゐるのはそのところです。その後も心悸昂進の弱震、軽震、微震程度のが起るやうですが、もはや莫迦々々しくなつて、余りにさわぎもしません。強いのは起りません。毎夜アダリンを呑んで寝ますので（主治医の命令に仍り）朝少々睡いです。今日も睡いです。あとで睡りませう。昨日日本位田さんからいろ／＼慰問され激励され楽しい時間を送りました。「横溝君から、三十分以上面会はいけないぞといはれてゐるから」とて正確に逃げられてしまつて残念。昨夜寝てから軽震が起つた様子。アダリンもそろ／＼効きかけた頃。徳川むせい先生を真似して「心悸句集」を作らうかと思ひ、朦朧ふら／＼の中に二三句を得ましたが、憶えてゐるかどうか。思ひ出してみませう。

○小猫啼く雨戸の外の夜寒哉

○朝寒や雨戸の外に小猫なく

この外に心悸昂進の句と胸の病の句を得たおぼえあれど、只今どうしても思ひ出せませぬ。今日はこれにて。どうぞお大事に。

十三

正史大兄 硯北

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年9月30日夕（122209）

封書 便箋5枚 筆書

九月三十日夕

肩のお凝りになつてゐるのにお手紙をありがたう。すみません。無理は

いけませんから、どうぞ。私も今日は快調で殆んど心悸昂進のことを忘れて過ごしました。もっとものつびきならぬ原稿を二十一枚も書きましたので、病氣のことを考へてゐるひまも、余りになかったわけ。そして執筆速度は、うんとおとしてゐます。明日は、もうこんな大仕事はやめたいと思つてゐます。連載一つ、完結となりやれ〜です。本月は私も稼ぎがわるく、近來のレコードになりませう。たしかに各社とも支払ひぶりが悪くなりました。要警戒であります。

今日は写真機やさんが、私の単玉レフ（エキザクタ\*）をきれいに修理してもつて来てくれましたので、今宵いい気持でゐます。早くこれをひねくりまはしたいもの。別にローライレフも借りて、一本うつしてみることになりました。それをやって心悸昂進が起つてはたいへんですから、私はなるべく口だけを担当し、万事は長男にやらせることにしたいと思ひます。夜間撮影がどれ位に行くか、たのしみにしてゐます。毎日牛肉をくはせられるので閉口。今日で四日つづきました。第一破算のおそれあると思ふんだが、女房は破算をしても私の病氣を早くなほしたい決心のやうです。目を白黒して、肉にくひついてゐます。（但しおひるに出るのです）

ルミちゃんのおはぎは、ほんとにお氣の毒さま。うちは昨日おしることをこしらへました。そして私も一ぱいのませられ、目を白黒。ルミちゃんが、こんど、さういう日にいらっしやることを祈つてゐます。（電話をかけられるやうになれば、いいですね）

陽子は明日修善寺温泉泊りの一泊遠足に出かけます。その準備にさわいでゐます。葦山の方も通つていくらしいです。伊豆では吉奈よしなといふところが忘れられません。女房は吉奈ホテルの味を忘れかねてゐます。とにかく身体をよくして、温泉へぶらりと出かけるやうになりたきもの。

今日はこれにて。

十三

正史大兄

\*エキザクタ ドイツのイハゲー社製の一眼レフカメラ

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月1日夜（12210）

封書 竹々亭用箋2枚 ペン書

十月一日夜

お咳と痰はどうですか。肩の凝りの方はどうですか。病氣の話ばかりが繁盛するのは、困つたものですね。

私も今日は失敗。昨日は甚だ好調で、もう癒つたぞと思ひましたが、けさ顔を洗つたとき、水がひやりとしたので、それが刺激になって、そのあとがどき〜として来て、夕方まで不安な気持がつづいてゐました。只今はもうすっかりおさまつて、平常の気持でゐます。それと今日の午前中は、腹を冷やしまして腹がつめたくなり、それも刺戟になっていやな気分を誘発したやうです。（腹を冷やしたのは、浴衣一枚の上に前垂だけをしめ〜もちろんサルマタはしてゐますがね〜胸を大いにひろげて風巻を入れてゐたので、それで冷えたらしい）。それに氣がついて、毛の腹氣分のわるいとき、どき〜を忘れようとして、軽い少年連載を十七枚かいてごま化しにかかりましたが、どうやらごま化し切つたやうです。お隣の陸穂もすっかりとり入れがすみ、今日は例のゴマメの歯ぎしりのやうな鳴子もひっこぬかれて、しまはれました。

陽子が遠足で不在ですが、弟たちが「今頃陽子ちゃん、旅館にいたらう」とかなんとかしきりに話題にしてゐます。けんかばかりしてゐるの

に、かうなると、しきりに案じ合ふうちの子どもでもあります。

今日のお昼は牛肉ではなくて、チキンでありました。やれ〜でありま

十三

正史大兄

硯北

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月2日午後（12211）

封書 K・H・K製原稿用紙3枚 ペン書

十月二日午後三時

又例によつて病氣の話から始めます。今日は好調です。ためしに、（どうもためしをしたがついていけません。そして失敗するのがオチなのです）少し動いてみました。動いたといつても写真機を家の中でひねくりまはしただけのことです。少しふう〜いひましたが、心悸昂進症には陥らず、いささか自信をつけました。（この自信がコワイんですがね）仍つて只今も機嫌よく机の前に座つてゐます。幸ひ今日は原稿催促の客も来ないので、のう〜としてゐられます。

そのかはり、前に並べた原稿用紙には表題と名前と「前号の梗概」が書いてあるだけでさつぱり本文へ進みません。

後になりましたが、あなたのお肩はどうですか。お咳は、痰は？

今日のお昼はまた牛肉へもどりまして、すぎ焼きとなりました。松茸を入れたので、おいしくたべ、いつもより少しく多くなつたべました。家内がよろこびました。

薬屋さんが、注文しておいた注射薬を持って来ました。トロンボゲン5cc二百管、ヒスコパール二百管、アクタシン\*⑤2百管、それに雑品少々

合計四千五百五十円也。このくすり屋さんへ、一回に一万何千円払ふこともあります。バイエルのくすりはもうないかと聞けば、オムナジンの注射薬が少しあるだけで外にはないといふ話。

旬刊ニュースの稿料、やうやく送つて来ました。

十三

正史大兄

硯北

\*トロンボゲン、アクタシン トロンボゲンは止血剤、ヒスコパールは不明、アクタシン（アクトシン）は皮膚潰瘍治療剤

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月3日朝（12212）

封書 便箋六枚 筆書

十月三日朝

私に同情せられ、お訪ねくださる途中、御異状にてお引返し趣、かたじけなく、且つ大恐縮。厚き友情に感泣いたします。そんなに無理をして頂かなくとも、私はなんとか持ち保へてゐますから、どうぞ御心配なきやうに。さるにても服装の儀は、平常のまゝにてお氣輕においで下さい。延原夫人すらゲタバきにすねをむき出しにしておいでになります。

私は渋谷へ出懸けるときにも（但し本年は一度も行つてみませんが）うちにあると同じ位の服装で下駄ばきで出かけます。どてらで下駄ばきに御出で下されたく、ネクタイなんかぎゅうツとしめつけて来られては話がしにくくていけませんや。荷風先生\*調がおよろしいやうです。私なんか今以てあやしき風采にてお客にもあへば、（子供の先生が家庭訪問のときにもそのまゝで）散歩もいたします。近所では、海野十三があんな恰好で歩いてゐるぞと評判の由。

陽子も無事伊豆旅行から帰って来ました。第一回は葦山見物定石どほりにて修善寺に一泊。翌日は土肥へ出て、船にて沼津へ出て東京行の汽車へのりこんださうで、私もかつて役所にいたとき、デザインしたコースでした。橋本屋という旅館一泊が四〇〇円。米は持参。さだめし喰べる物がなかったらうと訊けば、夜は、さしみに、かつをの塩やきに、それから野菜煮などつき、翌朝はめざしやみそしるや他に二品もついたさうで、思いがけないりっぱなお膳立だったのにおどろきました。温泉宿も、天下の金づまりで、えらく不景気のせいで、サービスが自然改善されて来たのでせう。私にとお土産を買ってきてくれましたが、木製のお人形、ミニチュアの木製茶器、エハガキ、パイプ、趣味の鳴子。こんなにたくさん、お父さんにくれるのかと一驚いたしました。

正史大兄

\*荷風先生 永井荷風 小説家

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月4日朝 (12213)

封書 便箋5枚 筆書

十月四日朝

御手紙拝受。牛肉の喰べ方について御教示ありがとう。早速、試みてみませう。因に昨日昼は牛肉休みで助かりました(これを読んだら女房が怒るでせうが)。演舞場へお出になる由。たいへんけっかう。うちで

十月六日夕

この頃は毎夜停電をいたし不愉快です。この冬の発電の水は十分だといふのに、何といふ事です。拙宅はトランス\*から一番遠い末端に近く、昼間の好調子などでも八十ポルト、夜七八時頃は六十何ポルトといふ情けなき。これはトランスから拙宅迄の間に相当の電熱器が使はれてゐることを物語るのせう。ホームライトがあるから灯の方はいゝやうなものゝラジオが聴けないと子供が残念がつてゐます。

今日はコロニア製のオール・ウエーブ受信機\*を会社より修理に来てくれ、元のやうに鳴り出すやうになりました。私は甚だつらいのですが、子供たちは「カネノナルオカ」と「ムコウサンゲン両ドナリ」が大好き。その鳴つてゐる間、こっちは聞かないやうに努力して、この頃では卒業しまして、気にならなくなりました。六大学の野球試合の放送は聴きたいが、聴くとドキ／＼が起るやうな気がし、結局なるべく小さくして遠くの方から聞くことにしました。(只今早立第二回戦。只今ワセダのピンチ。たいへん／＼。只今W九対R三、又入ってW九対四、末吉かはり荒川出る。どうなりますかな) 今日短編を三十枚を書き出す筈のところ、すっかり遊んで(カミノシミアリ、失礼)しまひました。昨日は、数千万年の世界を舞台にした少年連載\*を仕上げました。仕事をしつてゐると病苦を忘れ、しすぎるど病気にわるい影響あり、そのよろしき程度を探しながら、日を送つてゐます。本日やや不安定なるも、症状は起こらず。だん／＼いゝやうです。

正史大兄

\*トランス 変圧器のこと

\*オール・ウエーブ受信機 一般的なラジオ放送の中波帯だけでなく、短波帯も受信できるようにしたラジオ受信機

も、女房が、温泉行とお芝居映画見物の出来る日を待望してゐます。今の心悸昂進が片づけば、お芝居映画の方は出来ると思ひます。温泉の方ハ大分先のことです。演舞場の「法界坊」(多分)は評判らしいですね。大正四年頃の菊吉\*などの青年歌舞伎が二長町へ揃つて出たときに似た気運が今あるやうにも思ふのですが、これはラジオで聴いた印象だけのこと。とにかく実物を見たいもの。

沢井君がお酒をごちそうになりました由。さぞ、よろこんだことだと思います。昨夜も小一時間停電しましてホームライト活躍。いつになつたら無停電になることやら。

その後心悸昂進症も微震程度に過ぎず、昨日など近来最好調でありました。これなら大したことにもならず、落ち着いてくれるのではないかといふ気がいたします。夜もアダリンを呑みまして寝ますが、十時頃から五時頃までぐっすりと睡ります。主治医は「よく睡り、よくたべておれば、間もなくおさまります」といつてくれます。昨日は昼寝を三時間もしましたのに、夜は又よく睡りました。

清水の三保に住んでゐる親類からの来信に、富士山は九月三十日に淡い初雪がつもつたさうで、それがおひる頃には早くも消えてしまつたさうであります。

正史大兄

十三

\*演舞場 新橋演舞場。空襲で焼失したが、昭和23年に復興した

\*菊吉 六世尾上菊五郎と初世中村吉右衛門を指す

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月6日夕 (12214)

封書 便箋5枚 筆書

\*数千万年後の世界を舞台にした少年連載 昭和23年12月から24年3月に「少年読物」に連載した未完作「赤毛の猿人」か

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月7日朝 (12215)

封書 便箋6枚 筆書

十月七日

大分御好調なれど少々不安定感ありとの事、御休養こそ然るべしと存じます。台風一過して秋深く、近所の御散策など然る可く、松茸飯、松茸入りのスキ焼きなど如何に候や。

ヒムロ\*は、私の生まれ故郷の阿波などに於ては蚊いぶし用として最上のもののやうに云はれ、その木片を夏、さかんにくすべた記憶あり。ちよつと香もよろしきもの、御序あらば、折れ枝などによつて御試みあつては如何。

自由出版の領収証用紙の間違ひの件は、私のところへちがつた金額のもの(七千五百のかはりに五千のものが入つてゐました。私は三ヶ月も礼金支払を延ばされてゐたもの)が入つてゐたので金額訂正して送つてやりました。それから起つた事でせうが、社員ボヤ／＼してゐます。他から聞けば内輪モメひどく(村瀬氏対高山及本田モウ一人の同級生)代金回収もつかず、壊滅に瀕してゐる。只村瀬君のみは強気です。あなたはいふ話にて、私の貸金回収も印税取得も甚だ心細い次第。あなたは早く回収されて、本当によろこびました。

とにかく出版には素人のくせに、私なんかの云ふ事は用いず放漫にすぎ、着実に基礎をつくる事に徹しなかつた上、いくらもチャンスはありながらそれを逃したのがいけなかつたと思ひます。私としても残念至極。弟\*の生きてゐたときは、じゃん／＼云つてやり、為めに弟は村瀬君と私の

間に挟まってくるしがってゐたもの。私のいふ通り江戸川横溝天下ものだけ出してゐればよかつたし、昭和二十一年には少年ものに着手してゐれば、今頃は万々歳ものだったのです。商売と社交は別ものである事もよく注意したのです。さういふ事をさっぱり聞き入れないで、手前盛りの怪しげなる装幀で本をだしたり、売れもしない作家のものを、江戸川乱歩さんのお声懸りで出したり、微小出版社のくせに大尽出版社の如く振舞つたのがたつたてゐるのです。その他放漫なる事沢山あり。元氣はよけれど、素人だし、一見識、一貫性を欠いてゐます。折あらば貴兄を以て村瀬君に忠告し且つ激励を加へられん事を私よりもお願いいたします。今から「少年探偵小説全集叢書」みたいなものを十五六点出すのもいいではないかといつてやってみますが、どこ迄真剣に考へてゐますことやら。

わが家の雑花苑には依然として咲けるは オイラン草 百日草 おしろい、サルビヤ、それに萩です。コスモスイよ／＼丈が高くなり蕾もふくらんで来ました。可憐な花を見せられるのはあと二、三日してでせう。楽しみにしてゐます。では又。

正史大兄 硯北

\*ヒムロ ヒムロスギ。別名サツマズギ、シモフリヒバ

\*弟 海野の弟・佑一。昭和22年3月没

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月8日夕(122216)

封書 便箋4枚 筆書 新聞切抜(ニューヨークタイムズ)

十月八日夕

本日はよし子さんと亮一君がお顔を見せて下され、病人大いにうれしく、元氣づきました。深くお礼を申します。今日は、昨日少々仕事に熱

中したせいか脈が早いやうで、気にしてゐますが、東光出版から頼まれ

し連載\*の書き出しを初めたところ五枚程のところ、心臓が大駆足なる事に気がついて狼狽し、ペンを放り出して別の部屋へ逃避しました。荷重がうんとかゝる仕事は毒ですね。もうやめちまはうかと思ひました。かゝる次第故、入りくんだ筋のものをこなす力さっぱりなく、結局怪しげなるユーモア探小を書く位がせい一杯です。

今日の事故に懲り、以後、新規原稿一切断る決心をいたしました。そして目下引き受けてゐる連載ものを、出来るだけ枚数を詰めて書き、お茶を濁すことにしませう。右本日の決心也。明日、明后日は、またどういふ事になるやら不明であります。お互ひさまに病氣咄はタネ切れになる日が早く来てほしいものです。

ルミちゃんおめでどう。きょう、おいわいに万年筆とシャープえんぴつとを買いました。そのうちに、どなたかにおねがいしておどけます。それまでおまち下さい。

今日ローライレフの試験撮影終了。五日ほどしたら結果がわかるはず。これ楽しみの一つであります。では又

正史大兄 硯北

\*東光出版から頼まれし連載 昭和24年1月から「東光少年」に連載した「少年探偵長」か。海野の没後、横溝が書き継ぎ完成させた

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月9日夜(122217)

封書 海野十三用箋3枚 ペン書

十月九日

今日は晴彦が伺ひまして、御馳走さま。お礼を申します。

実はどこのお家へも出したことがないので、お宅へ修行のため、用をいひつけて出したのですが、当人のためになりました様子、ありがたう存じました。

あの子は、出かけるのが嫌ひで、学校の遠足も休む方でした。が昨日は珍らしく十国峠\*へ行きました。それについて、私と家内申合はせ、今晴彦がカメラ熱を出して居るところから、十国峠へ行ってうつつしてくれば楽しいよといつて出かけさせたわけ。これは当りまして、「楽しい遠足だった」と、かえってから申しました。

本日も皆さんの御厚遇により、たいへん気持がよかつたらしく、気短かの彼のこと故、ルミちゃんへのおみやげを置いたらそのままとんでかへってくるだらうと思つてゐましたところ、暗くなつても帰つて来ないので、ちよつと心配しまして、お電話までした次第。そんなに永く彼をもてなして下さつたのには、さぞお骨が折れた事と思ひ恐縮であります。とにかく今日は彼のため、この上なきありがたき修行になりました。家内とも／＼大よろこびであります。

この次は、日曜のとき、延原さんのところへ使ひに出してみようと思ひます。

なほ、今後お宅へたび／＼参上させますつもりです。どうぞよろしく御引まはし、御教育のほど願ひ上げます。

私の病状は、本日はたいへん好調で、これまでのうち、一等よろしい日でした。但し夕方にはちよつと晴彦を心配しまして起りかけましたが、解決してくひとめました。只今も好調、晩飯もおいしく食べました。

今日は原稿はやすみました。

西日本新聞社の社員で、福岡から東京詰になってまだ、半年もたたない人が、うちへ持つて来る原稿料をどうかしたらしく、本日社より特使が

来て謝りました。オヤ／＼と吃驚しましたが、大臣にもこの頃の流職あり、雑誌出版社の社員にもこの種事頻発しまして、今年になってこれ三件であります。(光文社とGメン社各一件あり)油断ならぬ世の中でありますが、その人たちに同情もされず。福岡から東京へあがつて来て、若い細君をつれてゐる彼ノ君が、ついそれに手を出した気持もすこしは分るやうです。生活難は、物がたくさん出るやうになつてこの頃に反つて大きくなり、誘惑されて犯罪にまでなる機会も多くなつたのであります。概かほしいことです。

今、昔の春陽堂発行のウルトラマリン色の探小叢書をよんでゐます。次はあなたの「地下鉄サム」\*を久しぶりにて拝読します。大楽しみです。

正史大兄 硯北

皆々様へよろしく

十三

\*十国峠 箱根と熱海の中間にあり、峠の頂上から富士山や駿河湾の絶景が望める

\*「地下鉄サム」 アメリカのJ・マッカーレーが執筆した探偵小説シリーズの主人公。横溝は昭和4年「地下鉄サム」(平凡社)として翻訳、紹介した

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月11日夜(122218)

封書 便箋5枚 筆書

十月十一日夜

今日はよく晴れ、いい気持でありました。しかしあんまりよく陽が当り、縁側の上にギラ／＼と新聞紙が光つたので、これが反射条件となり、ちよつと心悸亢進を起しました。甚だ敏感で、吾ながら軽蔑ものです。尤も間もなく収まりました。癒るにしても波動あり、地震の余震みたいなものあり、それは覚悟してゐます。愚昧なるわれに向つて自ら申すに

は第一「心悸亢進症やその他の呼吸困難では死にやせん」第二「自分で自分の咽喉を締めるやうなことをするな」と。後者は、自ら怯えて、苦しくもないのに苦しいやうに思ふ結果苦しくなるのであります。

今日村岡花子さん\*の弟にあたる元文芸春秋安中改め□□氏が来り、一人息子さん(二二)が二月に突然咯血して今も入院中云々との話を聞き、同情いたしました。そして私の大切と思ふことを述べてあげ、遠藤博士の「新療養道」をお貸ししました。聞けば、やはり若気で無理に勉強をし、アルバイトをつづけた結果の由。

もう書くまいと思ふのに毎度病気の話ばかりにてすみません。しかしあなたが聞いて下さるので、私は大安心をしてゐられるのです。

晴彦が、お宅の見とり図をかいて、こんなところだよ、と教へてくれました。帰って来てから、何か伝染しまして「オルガン買ってくれ」とねだり始めてゐます。小生今日断を下して曰く「家が今は狭いからだめ、広くなったら買ってよい」と。

昨日は延原さんが来てくれました。自分のことはよく分らないが、延原さんがめつきり年をとられたのに感慨をわかしめました。すこし多忙すぎるのぢやないか、鎌倉からの通ひがこたへたせいかとも思ひました。それなら赤堤の新居ではのび／＼として、若返ることです。

原稿はまだ出来ませぬをくりかへしてゐますので、お客と電話いよく／＼繁く、よわったことになりました。名文句を考へて、家内をして代弁させてゐます。

正史大兄 硯北

\*村岡花子さん 翻訳家・児童文学者

十三

右の写真二葉は焼増の上、お送りいたしますから、暫くお待ち下さい。角田君のところに、はじめ男の子さんが生れし由、今朝笹本の寅さんが知らせてくれました。嗚かし大よろこびであります。ではこれにて。みなさんへよろしく

正史大兄

十三

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月14日夕(122220)

封書 便箋3枚 筆書

十月十四日夕

色々と御忠言をありがたうございました。拳々フクヨウいたし一日も早く頰勢軌回にこれ努めませう。

電話屋の森サンが行きました由。彼は商人にちがひありませんが、やることは責任もつてはつきりやりますから、電話のとおりつけ方も最短時日でやることと思ひます。釣の好きな人です。この人の「言葉」は江戸ッ児弁の最後のものではないかと思ひます。お味はひになつて御判定下されたし。

今日は、大阪の高島屋雑誌部の使者の、ひどくねばり強い仁のために、たうとう、十七枚を書いてしまひました。途中少々ドキ／＼が起こりましたが、この一週間か十日間、ウルサイことたいへんで、これを脱れない限りわしの病気もなほるまいと、観念して今日は三十七枚ものを書き上げし次第。これに懲りて、もう大阪ものは一切引受けまいと思ひました。ヤレ／＼。

奥さんが助手を志された由。うちのは看護婦さんでもあります。とにかく手許にひきつけておかないと、不安になつてかなひません。しかし病

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月13日正午(122219)

封書 便箋5枚 筆書き

十月十三日正午

昨日はありがたう。よく来てくださいました。万難を凌ぎ大勇を奮つておこし下されし事、ありがたくうれしく、今朝も目がさめると、とたんにこれを思出して、うれしくてたまらず、元気に起きました。今日はお手紙を二つ拝受。

心悸亢進症についての御教示の点、よくわかりました。早速それを実行に移すことにして、今後原稿の新規引受は断然慎みませう。そして一ヶ月でも早く連載をケリにして、引受連載の数を減らませう。

その他の事も逐次気をつけて行きます。とき／＼大兄より「やつてゐるか」とチエックのことばをかけて頂きました。

今朝写真キヤさんが来て、さきに渡して置いた試験うつしのフィルムの現像焼付を持って来ました。亮一君とよし子さんを二枚撮りましたが、一方は普通に撮り、他方は閃光球を使って撮りしもの。その特徴がいやにハッキリ現はれてゐますので、これでは買はないわけに行かず、たうとう買ってしまふことにいたしました。但しその試験撮写のとき、閃光電球を使つてうつつしたものの四枚ある筈のところ、二枚しかうつつ居らず、他の二枚は全然うつつ居ません。シャッターが開かなかつたやうです。案ずるところ、これは電気装置使用に失敗があるらしく、キカイの罪ではなく、慣れないがための失敗だと思ひます。

― 来客あり、中断 ―

関西の親類より、東上の同僚の手を借りて松茸一籠到来。これよりおひるのスキ焼、ちやうどいいところへいいものが来ました。天に感謝し親類の好青年に感謝いたします。

勢は、先日あなたが来てうれしがらせて下さつた以来、大いに好転したるやうで、御安心下さい。今日はこれにて

正史大兄 硯北

十三

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月18日朝(122221)

封書 便箋4枚 筆書

十月十八日朝

其後好調であります。昨日などは近頃第一の身の軽さを覚えまして、気味のわるいほど、気が持がよろしく、生きかへつたやうな気がしました。この調子で、あと続いてほしいものと祈りました。

先日來、ちよつと動いても、ふう／＼と息が切れましたのが、昨日は少々連続して動きまはつても平気でありました。もう息切れなかなかほる事なく死期を迎へるのだらうと思つてゐましたのに、これは恠に意外でした。主治医先生のたしかなおん腕前と友愛とであると感謝してゐます。従つて昨日は仕事も出来まして、少年ものを二十枚以上も書きました。今日は休養するつもりです。

とにかく、このやうな好調が戻つたことは意外で、この調子なら前途に明るい希望が持てると思ひました。御放念願ひます。もつともいよく／＼自重して闘病に当ります。

今朝の新聞の少年もの出版社の広告ずらりの中に小生の著書は一つも見当らず、この秋は海野十三すつかり姿を消した形であります。いいことだと思つてゐます。しかし、決して負けるつもりはありません。

庭にコスモスが咲き出しまして、それを硝子越しに眺め、楽しいことでもあります。これは私がタネを五つまいたもので、たいへん可愛いんです。

今日は大西風めいた烈風が吹き出しました。いよいよ冬遠からずといふことになって来ました。竹が吹きたふされさうにしなひます。コスモスが折れやしないかと心配してゐます。

正史大兄

十三

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月19日夜(12222)

封書 便箋1枚表裏に記載 ペン書

十月十九日夜

○御手紙をありがたうございました。偕成社も初版二と決定いたしたる由。近頃の景気では二万は仲々の大出版。社の方でも「怪獣男爵」にほどの自信をつぎこんでみると見ます。尚、つづいて二版三版をいたしますでせう。お楽しみに。かうなると、大人ものよりも少年ものの割のいいことがお分りになります。しかも十年十五年二十年と、毎年同期に出るのですから、いよいよ楽しみであります。どうか、これをきっかけに、少年ものをどしどしお書き下さるやう熱望いたします。次は、東光出版社のをぜひとも願ひます。同社よりはこんど雑誌「東光少年」を創刊します。私は「少年探偵長」を書くことになって居り、筋は「名金」で、しかしその争奪の途中に、それが変造され、やがて二つの断片が一つに合はされたとき、それが大爆発を起す(実は一方にウラニウムが入れてあり、他方は中性子の発生体があり、そこで二つをあはせると、この原子爆弾がバクハツする)といふのがヤマであります。○角田君のところへ私もお祝をしたと思ふのですが、たしかにいいものがないやうですね。都合によつては来年の初節句まで伸ばして五月人形でも贈らうかと思つたりしてゐます。

ました。

○明廿日午後五時すぎから、前に小生の書いた「キューリー夫人」の再放送が行はれます予定。今日はこれにて。

十三

正史大兄

\*玉電 現在の東急世田谷線。海野の自宅最寄駅は若林だった

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月20日(12223)

封書 海野十三用箋1枚 鉛筆書

十月二十日

お手紙ありがとう。  
バターは、ありますから、いらして下さればおゆづり出来ます。  
油の方は、この前買ったところへ連絡してみます。一斗罐単位でないと売らないかもしれません。問ひあわせに、しばらく日数がかかりますことを予め、御承知下さい。  
以上女房の話を御伝達。

西田先輩も、もう見えたところでせう。どうぞよろしく仰有つて下さい。そしておひまがあったら、一度お顔をお見せ下さいと、頼んでおいて下さい。

乾呂氏南亭先生\*も本郷に家が見つかりしとか。けっかうでした。私の脈も、だいぶん圧力が増して来た由。またタメシをやつて、ときどきふう／＼いつてゐますが、とにかく脈がすこしづつ前に戻つて来て楽になり、今まで病気でありしことが分ります。  
七月以来仕事をあまりしないことが、漸く顕著に結果を生じて、本月の収入煙霧のたな引くに似たりです。

○身体の方は、波動的に一進一退してゐますが、総合してみると快方へ向いてゐることはたしか。この調子だと故小栗さんなどが悩んだほどのひどい心悸亢進症にはならないですむだらうと思ひます。うちの家内のもひどかったのですが、全くいやな病気で、クワバラ／＼です。それに比べると、私のなんか神経衰弱が主体で、それに附録として心悸亢進症がついているやうなもの。尤もこの七八月の臥床で、大いに体力が消滅し、衰弱したことが原因の一つになつてゐることもたしかであります。

○写真を同封いたします。後の雁が先になつたといふわけです。閃光球をたいた方とたかない方との区別がはっきりつきまますところへ御目をとめていただきます。前の分も後の分もまだフィルムが未撮の分が残つてゐますので、もうすこしお待ち下さい。

晴彦が先日とらせて頂いた分はほとんど失敗してゐます。いろいろと注意を与へてやりました。とにかくそれは近日焼きましをして、不出来失敗のままごらんに入れることにいたします。

○ルミちゃんの入学問題も、これですつかり和了となられ御安心。この上は、楽しい通学生活にいよいよ天真らんまんルミちゃんと生長されんことを祈ります。

○うちの孫(三つ)が昨日はひとりで家を出、玉電\*の踏切を向かうへ渡つて、八百清の店へ行き「ミカン呉れ」といった由。清さんはミカンを渡し、ふみきりが危いからと一緒にそれを渡つたところへ、母親が行きあはせて、つれてかへつたといふ話。全くおどろきました。コンコンと朝子に注意を与へてやるつもりでしたが、なにしろまだ三つですから、話をしてやつても三つの子供には理解が出来ず、困つたことであります。

○病中ながら、病気を知らない先が多いと見え、今日も灌の川署から警部さん外一名が見え、講演をして下さいと頼まれ、平にお断りをいたし

単行本も、出るべきものが、いひあはしたやうに、さつぱり出ません。(初夏以来)これで、小生の計画どほりです。

これからは、春出版のものを少し考へることにしませう。

とにかくあまりたくさん本を出して、高いレコードをつくると、よくありません。税金の方でも、又読者に対しても。

病気を口実に、ずいぶん断つてしまひました。

「妖奇」\*の本多氏が手紙をよこし「生きてゐる腸」と「模鸚」合計二十枚ほどを、再掲出したいから六千円にしてくれと申入れがありました。ペア50円ではトンデモナイと思ひました。もちろん断りませう。

「獄門島」もめでたく完結。これから拝読のつもり。ご苦労さまでした。

十三

正史大兄 硯北

\*乾呂氏南亭先生 乾信一郎のこと

\*「妖奇」 オール・ロマンス社が昭和22年7月に創刊した探偵雑誌

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月21日夕(12224)

封書 便箋4枚 筆書

十月廿一日夕

今日は起きぬげに偕成社の社長今村氏が来ましたので、これに会い、それから「少年ヨミウリ」への新連載\*の絵組を書き、午後はNHK「子供の間」の原稿\*のこりを十枚書きまして、只今へたばり、空気を入れ替へて居りますところ。「少年ヨミ」の新連載の第一回より絵組です。われながらスマンと思ふが、どうにもなりません。しかもこの絵組たるや六七枚の分量あり、本ものの原稿は十六枚なんですから、笑ふべきことであります。今日はもう一つしなければ挨拶に困る原稿が(十四

枚)あれど、これは明日に伸ばします。  
なにしろ待つて、々々々が、ここへ来て約束だまりとなり、ぬきさしな  
りませぬ。しかし病気はいや。だから、出来るだけしか出来ず、あとは  
お辞儀の一手をくりかへすばかり。

今村社長の話に、先月あたりが、冒険ものの出版の低調のどん底ならん  
とありました。  
さかなのお話。うちでは、毎夕さしみつづきにて悲鳴をあげています。  
おゆづりしたいですね。これは、うちのとりつけの魚屋が、先日來、公  
配給魚屋をやめて、梓の外の自由値の高級魚ばかりの店に直したため、  
いい魚が毎日あるのです。もし御入用なら、お電話下さればその日でも  
手に入ることもあり、前日御注文なら必ず手に入ります。右家内よりの  
伝言にござ候。

つかれましたので、これにて少し休みませう。

十三

正史大兄

\*「少年ヨミウリ」への新連載「少年読売」に昭和24年1月から7月まで連載した  
未完作「未来少年」。未完に終わったため、高木彬光が書き継ぎ、完成させた

\*「子供の時間」の原稿 昭和23年8月〜翌年5月連載の未完作「原子力少年」

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月22日夜(122225)

封書 便箋3枚 筆書

十月廿二日夜

なんとといふ暖さでせう、従つて私も元気に過ごしました。このときと  
ばかり少年連載二つをやりあげました。(十五枚と十枚)そして夕方  
なつて、これはやりすぎたなと後悔しましたが何しろ持ちこしの稿債、

の三角洲にあります)

西田さんへもよろしく御伝へ下さい。

十三

正史大兄 硯北

\*小磯良平 洋画家

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月26日夕(122227)

封書 便箋4枚 筆書

十月廿六日夕

本日を以て、重要な少年連載は一先ず片づきました。明日より月末迄、  
ちよつと一息入れます。今月は心亢症にて、べ切を出来るだけ伸ばして  
もらったためどれもこれも一緒に落合つてしまつてこの一週間ほどは全  
く自分の病気を顧る違もありませんでした。過労により悪化するのぢや  
ないかとビク／＼ものでしたが、案外大したこともならず、心悸亢進  
症の方は大ものは出て来ず、たいへん楽になりました。只 何とか外収  
縮とかといふのが起つて鳥渡ワク／＼するだけですが、これは心配なし  
と主治医のたまふにより安心してゐます。

今日は、うちのとなりの元陸軍獣医少将の宅に昼間ノビ師\*の少年がは  
いり、仕事途中に奥さんがかへつて来て泥棒と大喝。そこで少年ノビ師、  
垣根をやぶつて出たところを、うしろと前の両方を近隣の細君におさへ  
され、遂に御用となり、現行犯だといふのですぐ警視庁送りとなりしと  
か。盗んだのは元閣下のズボンと時計カフス釦指環なりし由。この捕物  
帳のため昼寝がオジャン。犯人はいい服装をしてゐて、頭ものばしてゐ  
て一見泥棒をしさうでなかつた由。この節は泥棒なんかの方が服装がよ  
ろしいこと、シヤクですな。

このところ山積し、べ切いっぱいやい／＼いはれてゐて、明日一杯  
は火の車、病を省るひまもなしといふ次第。これも因果であります。

「獄門島」終編を読みました。そして幕切れの余韻嫋々たるに感じ入り、  
陰さんなる殺人事件ながらそれが明朗に見える大兄の御手腕に感じ入  
り、「キのちがひ」では、きれいに背負ひ投げをくらつて快味を覚え、大々  
感心いたして大歎息。第一回の発端とこの解決との昭和の見事さ。まこ  
とに感じ入りました。益益御自愛を祈ります。

今日はこれにて。 十三

正史大兄 硯北

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月24日午(122226)

封書 便箋4枚 筆書

十月廿四日午

昨日は西田さんと共に御來宅下さつて、ありがたう存じました。その前  
日少々仕事を任過ぎましてあの日は休みたかつたのですが、約束の午前  
さうもならず、仕事にかゝつて居たところ、来て下すつたので、晴れて  
のう／＼と愉快に過ごしました。かういふものをこそ神さまの御恵みと  
申すべきか。友情のありがたさに感銘いたしましたことでありました。

神戸のお話がはづみまして、家内も傍から承つてゐて、私が神戸弁を出  
したと、よろこんでゐました。僕の小学同級生の多くは、地勢上、二中  
へ受験し入学しました。あなたの御記憶に、下記の人々の名が残つて  
ゐはしないかと思ひます。 山本豊之進(級長でした、仲よし)。小

野富弥(小さい子で強度の近眼)。その外 関口誠 岸上格之助(小磯  
良平の兄)、山根某などが居たかもしれません。小学四年卒業の写真を、  
そのうちお目にかけてませう。(湊山小学校は御存じでせうが、湊川上流

十三

正史大兄 硯北

\*ノビ師 忍び込みの窃盗犯を指す

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月27日夕(122228)

封書 便箋4枚 筆書

十月廿七日午後

今日は原稿書きはお休みです。たいへん楽です。ぼつ／＼動いてみまし  
た。まづ愛読者からのハガキや手紙の返事がこの数ヶ月たまってゐたの  
を整理して、三十数通返事を書きました。文面は同一。ガリ版刷り。一々  
かいてゐた日にはやり切れませんので、それに目下ずつと病体ゆえガリ  
版返事で、かんべんしてもらうことにしました。これ工合よろしく、あ  
と／＼もさうするつもりです。それからラジオのオール、ウェーブ受信  
機が、この間あなたと共に乾城対談\*を聴きし以来、唾になつてしまつ  
たので、中をあけて調べました。さうしたら真空管の一ヶがぎれてゐる  
ことが分り、早速いいのにさし替へました。これでよく鳴るやうになり  
懸案解決。

その次は写真フィルムの整理をちよつとやりました。寒くなつたので、  
着物を着換へましたところ、只今暖くなり、少々ねむくなりました。一  
昨日も昨日も、脈が不整で、例のナントカ外収縮がさかんに起つてゐま  
したが今日はそれが起りません。するとやっぱり原稿を急いで書くのが  
いけないのかも知れませぬな。

兎に角、今日は楽しく動いてみ、病勢が大分落着いて来たことを確認い  
たしまして、ちよつとだけよろこんでゐます。

今月は所得税をおさめる月。税をおさめて、また昭和電工や繊維局や炭

鈿国管事件のやうなところへ使はれノメヤウタへヤだの駒勇さん落籍の資となるのかと思ふと、納税するのがバカらしくなります。

十三

正史大兄

\* 乾城対談 乾信一郎、城昌幸の対談

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月28日朝 (12229)

封書 便箋4枚 筆書

十月廿八日朝

二十七日附お手紙ありがたく拝受、御仕事御盛んの由、御健康を祈ります。私は今日も執筆を休みます。明日は又始めるつもり。

西田老も きげんよくおかへりの由、老とはいふものゝ私よりは頭もずっと白からず 老とはアベコベの事でせう

延原さんと並べてみると、西田さんと同じ年頃でよく似合ふやうです。

自分は自分で見えないので、実際のこととは分らず、どっちが老人くさいですか。そこへ行くとなんたいはたいへんお若く見えますぞ。色艶といひ日やけた顔色といひ健康な歯なみといひ黒々とした頭髮といひ。人生須らくいつまでも若く居ろですな。

椿油のこと、先方へ訊きしところ、只今手に入らず、在庫もないさうです。大島へ行けば有るかもしれぬが、取引中止中の事です。菜種油ならあるさうですが、お宅には菜タネ油はお有りの由故不用でせう。そこで宅に椿油がまだ残つてゐますのでその中から一升お頒けいたしたいと家内が申します。お序の折御出で下さればお頒けいたします。と家内よりの伝言。

菊が咲きました。お宅のも、さうでありませう。菊は大好き。これ

理ある先のことなれば、そこ迄こつちも肚をきめて、伺ひをたててある次第。どうきまりますか未定。一つは先年第一回だけ書いた「鬼火族」\*であり、もう一つは警視庁筋の「蜘蛛」\*といふ雑誌。これは六ヶ月ものゆえ、短いですが。大兄に元気づけられたところへ持込まれ、少々色気のある返事をいたしました。今はやや後悔のていたらく也。

例のカネは、当方目下必要なきにつき、そんなに早く御返済には及び申さず、どしどしおため下さって、例のカネ高がハナクソ位の比重になつたとき、ちよつとこつちへ吹きとばして下さればよろしく、どうか御介意なきやうに。

本日第二回目の所得税をおさめてやれ。わしの出した分は、どうか大臣老存のワイロなどになってくれるなど祈りましたる次第。

長谷川伸\*氏肺炎になられしとか。コワヤ〜であります。お互ひさまに、体力低下をくひとめませう。

正史大兄

今日のヒルは、メンチボールにごさ候

\* 「鬼火族」 「鬼火族事件」 「実話講談の泉」 に昭和24年1月から4月まで連載

\* 「蜘蛛」 昭和24年2・3月合併号から6月号まで「電送美人」(未完作)を連載した

\* 長谷川伸 小説家、劇作家

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月31日夜 (12231)

封書 便箋5枚 筆書

十月卅一日

今日は延原さんが見舞と叱りに来て下されうれしかったりこはかったり。あなたはお風邪とか。急に寒くなりましたから御要慎なさい。久しぶりの東京の冬ですから、気をつけなさいませんよ。しかしこの両

から楽しみであります。

正史大兄 硯北

十三拜

海野十三 横溝正史あて書簡 昭和23年10月30日午後 (12230)

封書 便箋6枚 筆書

十月卅日午後

御たより嬉読。株券へ投資の有利なる事は対外為替レート決定近きあり、それに附随しての平価切下げ、まった生産振興貿易向上の点よりも、実質的な生産をなし得る会社の株は有利でせう。あなたのうしろについて少しのしみながら、やって見ませうか。しかし戦争が起つたらいやですぞ。尤も戦争は今直ぐには起らないと私は信じてゐますがね。

大局よりいつても生産振興へ、国民が投資により協力する事は時節柄たいへん結構なことと思ひます。ローライレフを買ふよりは、ずっとよらしい。

今日は寒いので、ちぢこまつてゐます。硝子戸を閉め、障子を閉め、四五尺距つたところに火鉢を置き、やうやく寒さと釣合ひ状態を保つてゐます。

仕事もぼちぼち再開しました。寒いせいか咳少しく頻発。何とか外収縮といふのは左図のやうに、「波動の図」とつぜん大きくうって、それからちよつと休み、それから小さく早くうって、次に元にもどる不整脈でありまして心臓のあたりがむづかくなるアレのことです。今日は、それが少々起つてゐます。

大人もの連載二つが、来年から始まるらしいです。自分で「らしい」とは変ないひ方なれど、どっちも持込まれて、こつちでは目下病氣ゆえ引受けても休載又休載又は尻切れトンボのおそれあるがよろしきやと、義

日の寒さは少しく変態でせう。もつと温いはずのものです。先夜温かつたときに、睡られぬままにシンキ俳句を

冬蠅の一匹居るや夜の温き

とひねり出しましたが、さやうな温い夜の戻って来らんことを祈る次第。近頃は夜、床に入ると、やがて痰の位置がかはるかして胸の中がむづがゆくなり咳頻発させ 時に過敏症のやうに咳が出て、苦しくてやり切れず、咳を停めようと無駄な努力をすると、これも又苦しくてやり切れず、その揚句が翌朝少々ながら赤味が増すこともあり「お床入り」は近頃の悩みの種であります。といって咳止め薬をのむと、次の朝あたり劇しい咳が出て一層不愉快。とにかくやり切れません。なんとか修養の力で過敏をおさめるか、「お床入り」に於ける体位に気をつけて研究するか、とにかくなにか解決策を発見しなくてはなりません。

シンクレアの「バッド」\*は私も買ひましたが、まだ読みはじめず、目下幸四郎の「二世一代」\*といふ芸説を読み終りしところ。この本、ちよつと頭の下がる本です。次は川尻さん作の「菊五郎百話」\*を読みます。近頃外出が出来ないので、新聞広告に出る本の中から探して注文するので数が少く、淋しいことです。早く松陰神社駅前の本屋位迄は行けるやうになりたいものであります。

正史大兄 硯北

十三

\* シンクレアの「バッド」 アメリカの作家アプトン・シンクレアの『ラニー・バッドの巡礼』(昭和23年、リスナー社 並河亮訳)のことか

\* 幸四郎の「二世一代」 七世松本幸四郎「二世一代」(昭和23年、右文社)

\* 川尻さん作の「菊五郎百話」 川尻清潭編「六世 菊五郎百話」(昭和23年、右文社)